

下北半島のサル

2024年度（令和6年度）

調査報告書



NPO法人
ニホンザル・フィールドステーション

令和 6 年度

天然記念物生息調査

むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

調査報告書

令和 7 年 5 月

特定非営利活動法人 ニホンザル・フィールドステーション

令和6年度 天然記念物生息調査
むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査地域	1
3 調査内容	2

II 調査結果

1. 事前調査	2
2. 2024年度 夏季ニホンザル生息調査（脇野沢・川内地区）	
2-1 調査の概要	3
2-2 調査日、ならびに各パーティごとの結果	3
2-3 夏季ニホンザル調査中に確認した群れの結果	6
3. 補足調査（秋季）	17
4. 2024年度 冬季ニホンザル生息調査（大畑・薬研地区）	
4-1 調査の概要	19
4-2 調査日、ならびに各パーティごとの結果	19
4-3 冬季ニホンザル調査中に確認した群れの結果	23
5. 補足調査（冬季）	29
6. 2024年度 各群れごとの結果	
脇野沢地区	35
川内地区	41
大畑・薬研地区	44
7 調査員名簿	50

III まとめ

2024年度むつ市管内のニホンザル生息実態調査の結果	51
----------------------------	----

除雪車が通った直後の

舗装道路脇に印されたサルとクマの鮮明な足跡	62
-----------------------	----

表紙写真

A87群 元気に動き回る Baby2頭

2016年 5月19日 むつ市脇野沢九艘泊

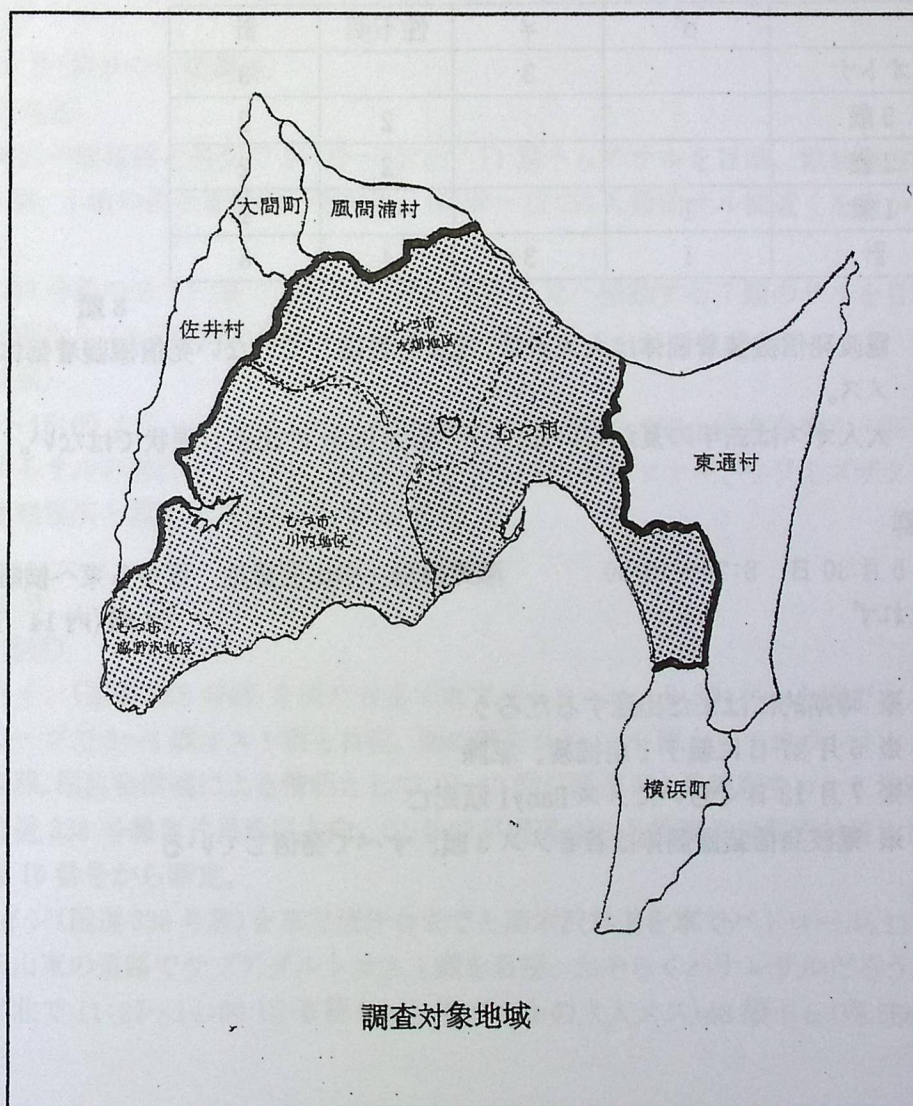
I 調査の概要

1. 調査目的

下北半島に生息するニホンザルは、現在、個体数・群れ数の増加等で農作物の被害のみならず、集落地への定着が進み地域住民の生活被害が生じている。本天然記念物生息調査は、地域住民とニホンザルとの共生につながる現状把握、将来像に必要な情報を得ること、サルの生態的研究等を目的とし、むつ市管内脇野沢・川内地区、大畑・薬研地区に生息するニホンザルの生息調査を実施した。なお、前年度までは脇野沢・川内地区の調査はむつ市からの委託調査であったが、今年度は大畑・薬研地区の調査と同様に当法人の独自事業として実施した。

2. 調査地域

むつ市 脇野沢地区・川内地区・薬研地区・大畑地区



3. 調査内容

地元調査員による小規模な調査を事前調査、補足調査とし、8月上旬に夏季ニホンザル生息調査(脇野沢・川内地区)、補足調査(秋季)、12月下旬に冬季ニホンザル調査(大畑・薬研)、補足調査(冬季)を実施した。また、聞き取り調査も加味し、2024年度(令和6年度)むつ市管内に生息するニホンザル生息実態調査として報告する。

II 調査結果

1. 事前調査

○ A2-84B 群

・2024年6月7日 15:30~16:15

新井田地区 県道

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ		3		3
3歳			2	2
2歳			2	2
1歳	1			1
計	1	3	4	8

8頭

※ 電波発信機装着個体は大人メス。電波を発信していない発信機装着個体も大人メス。

※ 大人オスは去年の夏からいない。今年Babyの出産も現状ではない。

○ A87-A 群

・2024年5月30日 8:30~10:30

瀬野黒岩 中山間農地 西から東へ横断時

構成とれず

94頭(内14 Baby)

※ 時期的にはまだ出産するだろう

※ 6月27日に親子1組捕獲、駆除

※ 7月13日ぐらいにメスBaby1頭死亡

※ 電波発信装置個体は若者メス3頭、すべて発信している

2. 2024 年度 夏季ニホンザル生息調査 (脇野沢・川内地区)

2-1 調査の概要

2024 年 8 月 5 日から 8 月 9 日までの 5 日間(ただし 5 日は事前調査)、12 名の調査員で脇野沢地区と川内地区の調査を実施した。調査期間中、晴れならびに曇りの日が多かったが、8 日は突然の豪雨、男川が増水するほどだった。猛暑のなかでの調査であったものの、暑さのピークは過ぎていたかに見えた。季節が半月ほど早く進んでいるようで、エビガライチゴの果実は終わっていたし、サルの体毛の夏毛から初秋の状況に進んでいた。毎年悩まされていたアブは車にまとわりつく程度でそれほど悩まされなかった。今春のブナの花芽の状況はかなり良く、秋の実りに期待が持てた。ミズナラ、サルナシ、ヤマブドウもまずまずで今年の秋の実りは豊作であることが推測できた。

2-2 調査日、ならびに各パーティごとの結果

◎ 8 月 5 日(前日の予備調査)

〈脇野沢地区〉

- ・ 芋田地区の堰堤西と斜面で 14:10~14:35 11 頭+ α のサルを目撃。電波発信機の情報より A87-B 群。1 組の親子を確認。その後、16:50~17:30 九艘泊サル橋近くを東から西へ移動していた。
- ・ 国道 338 号線のスキー場で 15:00~15:15 西から東へ移動する 7 頭のサルを目撃。電波発信機の情報から A2-84A 群と断定。親子 1 組を確認。

〈川内地区〉

- ・ 14:25~15:00 カモシカライン砥石沢林道出合より南 3、400m 地点を東から西へ県道沿いに移動するサルの群れ 30 頭+ α (3Baby) をカウント。クマヤナギ、ウワミズザクラの果実を採食。観察場所と頭数から M2-B2 群と推定。

◎ 8 月 6 日

(脇野沢地区)

- ・ 海峡ライン(国道 338 号線)を流汗台まで車でパトロール。9:00:ゲート東で大人オス 1 頭、M 字カーブで 3~4 歳オス 1 頭を目視。別の調査員が 02-B 群としてカウントしたため、そちらを参照。電波発信機による情報として、01-A2 群が国道 338 号線東生コン工場跡付近。01-A1 群が国道 338 号線西片貝地区方向。01-B 群が国道 338 号線西下細間沢林道入口付近。電波発信機 ID 番号から断定。
- ・ 海峡ライン(国道 338 号線)を車で流汗台までと面木沢林道を車でパトロール。11:30 石碑北、湯の沢山東の道路でサブアダルトオス 1 頭を目視、おそらくハナレザルだろう。また、M 字カーブ北で 11:27~14:00 02-B 群(Ch4 青ベルトの大人メス)48 頭+ α (内 5Baby) をカウント。

- ・ 8:35～10:00 調査の取材のため新聞社とサルを観察 新井田地区の県道で A87-A 群約 30 頭を観察。エゾニュウの茎、クズのシュート、花を採食していた。その後、九艘泊-滝山線、男川、宿野部川を車でパトロール。男川林道は西大家戸沢林道出合いまで踏査。11:03～11:53 男川林道の蛸崎雨量計と松山沢林道出合の中間点で 9 頭 + α (1Baby) を目撃、男川 A 群か男川 B 群が現状では判定できないが、目撃場所と頭数から男川 A 群の可能性大。また、15:50～16:35 国道 338 号線の滝山橋で 9 頭 + α (1Baby) を目撃、電波発信機より 01-A 1 群と断定。ニガキの実、アオダモの葉を採食していた。

(川内地区)

- ・ 県道川内-佐井線(カモシカライン)と県道畑-牛滝線を車でパトロール。また、湯の小川沢林道を踏査。別の調査隊がカウントした群れ以外のサル情報はなかった。
- ・ 県道川内-佐井線(カモシカライン)と川内ダムまでを車で踏査。2 群と 1 オスグループを確認。①10:39～11:30 県道川内-佐井線(カモシカライン)の湯野川開拓と砥石沢林道出合との中間地点で 33 頭 (7 Baby) + α (電波発信機装着個体確認) ②15:03～15:25 川内ダム湖畔道路で 5 頭のオスグループ ③15:45～16:04 県道川内-佐井線(カモシカライン)の大滝公園南で 35 頭 (3Baby) + α (電波発信機 CH5) をカウント。

◎ 8 月 7 日

(脇野沢地区)

- ・ 国道 338 号線ゲートまでを車でパトロール、面木沢林道を踏査。3 群を観察。①9:15～11:10 田の頭林道を南から北へ移動する 01-A2 群 {を電波発信機で確認} 71 頭 (9 Baby) + α ただし + α は少ない。②14:40～14:45 下滝山沢林道で 01-B 群 (電波発信機で確認) 36 頭 (5Baby) + α 。③16:35～16:43 国道 338 号線桂橋で A2-84A 群 (電波発信機で確認) 15 頭 (2Baby) + α 。
- ・ 細間牧場を踏査ならびに片貝地区、源藤城地区、海峡ライン (国道 338 号線) を車でパトロール。細間牧場で 01-B 群を目撃したが、別の調査員にバトンタッチ。
- ・ 海峡ライン (国道 338 号線) を流汗台北の工事現場まで車でパトロール。9:55～10:30 海峡ラインの工事現場南 600m 地点で 25 頭 (1 Baby) + α 道路を東へ降りるように移動した。ススキの穂、カラスウリの葉を採食していた。

(川内地区)

- ・ 県道川内-佐井線(カモシカライン)の佐井村との町村境尾根までと畑-牛滝線の野平地区までを車でパトロール、その間、和白沢林道、名由川林道、中川林道を車でパトロール。15:32～16:00 県道川内-佐井線(カモシカライン)の町村境手前でサルの群れ 26 頭 (1Baby) + α を観察。
- ・ 県道川内-佐井線(カモシカライン)の佐井村との町村境尾根までと三太郎沢林道、畑-牛滝線の川内ダムまでを車でパトロール。9:43～9:51 県道川内-佐井線(カモシカライン)の鍵掛沢出合より少し北で 3 頭 + α のオスグループ? を目撃。また、14:28～14:58 佐井村との境手前で 17 頭 (3Baby) + α を観察、この群れは別の調査員にバトンタッチ。ミズナラ、ブナの実

を採食していた。群れの識別は出来ていないが電波発信機が装着されていない群れであることから M2-B1 群か M2-B2 群のどちらかであることは間違いない。Baby の数を加味し 28 頭 (3Baby) + α を確認した。

◎ 8 月 8 日

(脇野沢地区)

- ・脇野沢-九艘泊-滝山間、ならびに海峡ライン(国道 338 号線)を大荒川林道入口手前まで、源藤城地区中山間畑周辺、滝山地区を車でパトロール。10:50~11:00 滝山福祉センター前で 01-A1 群(電波発信機で確認)20 頭(1Baby) + α をカウント。
- ・男川林道を西大家戸沢林道、板家戸沢林道を踏査。また、宿野部川林道の金八沢林道と西又沢林道を踏査。その後、脇野沢地区の下滝山沢林道で 16:13~16:28 01-A1 群(電波発信機で確認)24 頭(1Baby) + α をカウント。上記 20 頭 + α と同一の群れ。
- ・海峡ライン(国道 338 号線)を工事までを車でパトロール。踏査するグループと車で源藤城林道と蛸崎越林道を車でパトロールするグループに分かれる。14:09~14:14 海峡ライン M 字カーブ北で 19 頭(3Baby) + α をカウント。群れの識別できず。電波発信機の受信情報として、14:10~14:40 浄水場西で 01-B 群の電波を受信。14:25~14:40 02-B 群(ID 番号 0642)を源藤城林道内で受信。鳴き声も聞こえる。

(川内地区)

- ・県道川内-佐井線(カモシカライン)と畑-牛滝線を車でパトロール。サル情報はなかった。
- ・県道川内-佐井線(カモシカライン)の佐井村との境尾根と畑-牛滝線の縫道石山登山道入口、川内球場周辺まで車でパトロール。12:32~13:06 と 15:40~16:00 畑集落西の除雪ステーション周辺で 20 頭(2Baby) + α をカウント。電波を発信していない大人メス(黒テレメ)を確認。

◎ 8 月 9 日

(脇野沢地区)

- ・海峡ライン(国道 338 号線)を工事現場まで、脇野沢-九艘泊-滝山を車でパトロール。その間、武士泊林道、滝山西の林道を踏査。10:50~11:02 滝山神社西の林道を北から南へ移動する 01-A1 群を 23 頭(2Baby) カウント。
- ・海峡ライン(国道 338 号線)を工事現場までを車でパトロールのグループと道路を踏査するグループに分かれる。その後、面木沢林道、源藤城林道を車でパトロール。海峡ライン上で前日のフンを確認するにとどまった。

(川内地区)

- ・県道川内-佐井線(カモシカライン)の佐井村との境尾根まで、畑-牛滝線の野平脇野沢分岐まで、湯の小川沢林道、安部城沢林道途中までを車でパトロール。11:30 野平地区の一本ブナ地点で 5 頭のサルを目視。群れ名不明。
- ・県道川内-佐井線(カモシカライン)の佐井村との境尾根まで、畑-牛滝線の川内ダムまで、

湯の小川沢林道、名由川林道途中までを車でパトロール。川内-佐井線(カモシカライン)の湯野川開拓間道路路上で新しいサルの子と尿の跡を発見するのみでこれ以外のサル情報はなかった。

- ・ 国道 338 号線の田野沢地区まで、上・下小倉平地区、八木沢林道、名由沢林道(踏査)、中川林道(踏査)、県道川内-佐井線(カモシカライン)の佐井村との境尾根までを車でパトロール。13:55 県道川内-佐井線(カモシカライン)のスノーシェイドでハナレザル、大人オス 1 頭を確認。

2-3 夏季ニホンザル調査中に確認した群れの結果

【 脇野沢地区 】

○ A2-84A 群

・ 2024 年 8 月 7 日 16:35~16:43

脇野沢地区 桂沢橋

構成とれず

15 頭 + α (内 2 Baby)

※ 大人オスに電波発信機装着 大人老メスに装着している電波発信機は電波を発していない

○ A87-A 群

・ 2024 年 8 月 6 日 8:35~10:00

新井田地区の県道

構成とれず

30 頭 + α

※若者メス 3 頭に電波発信機装着。それぞれが電波を発信している

※ + α はかなりいる。群れの個体数は 100 頭近い

○ A87-B 群

・ 2024 年 8 月 5 日 14:10~14:35

芋田地区 左股堰堤西

構成とれず

11 頭 + α (内 1 Baby)

※大人メスに電波発信機が装着されているが、電波を発信していない

※ + α は多数

○ 01-A1 群

・ 2024 年 8 月 8 日

16:13~16:28

下滝山沢林道

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	9		10
ワカモノ		1	1	2
3 歳			3	3

2～3 歳			1	1
2 歳			1	1
1 歳			4	4
Baby			2	2
計	1	10	12	23

23 頭 + α (内 2 Baby)

※大人メス 2 頭に電波発信機が装着されている。ただし 1 頭の電波発信機は電波を発信していない

○ 01-A2 群

・ 2024 年 8 月 7 日

9:10～11:10

田の頭林道を南から北へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	22		26
ワカモノ	1	3		4
4～5 歳		1	3	4
4 歳	1		2	3
3 歳	1	1	7	9
2 歳			7	7
1 歳		1	8	9
Baby			9	9
計	7	28	36	71

71 頭 + α (内 9 Baby)

※ 大人メスに電波発信機が装着されている

○ 01-B 群

・ 2024 年 8 月 7 日

14:40～14:55

下滝山沢林道を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	13		17
ワカモノ	3	2		5
3 歳			2	2
2～3 歳			3	3
2 歳			2	2

1～2 歳			1	1
1 歳			1	1
Baby	1		4	5
計	8	15	13	36

36 頭 + α (内 5 Baby)

※ 大人メスに電波発信機が装着されている

○ 不明群 (02-A 群または男川 B 群または佐井管内の群れ)

・ 2024 年 8 月 7 日 9:55～10:30

海峡ライン(国道 338 号線)工事現場
手前 600m 地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	5		7
ワカモノ	1	4		5
4～5 歳	2	1	1	4
3～4 歳			3	3
2～3 歳			2	2
1～2 歳			1	1
Baby or 1 歳			2	2
Baby			1	1
計	5	10	10	25

25 頭 + α (内 1 Baby)

※ 電波発信機装着個体なし

○ 02-A 群または男川 B 群

・ 2024 年 8 月 8 日 14:09～14:14

海峡ライン(国道 338 号線) M 字カーブ北

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
4～5 歳		1		1
4 歳		1	2	3
3 歳			2	2
2 歳			2	2
1 歳			1	1

Baby			3	3
計	1	8	10	19

19頭+α (内3 Baby)

※ 電波発信機装着個体なし

○ 02-B群

・2024年8月6日 11:27~14:00

海峡ライン(国道338号線)M字カーブ北

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	15		16
ワカモノ	3		5	8
4歳	1	1	1	3
3~4歳		1	3	4
2歳			4	4
1~2歳		1	6	7
Baby			5	5
不明			1	1
計	5	18	25	48

48頭+α (内5 Baby)

※ 電波発信機装着大人メス1頭がいる

○ 男川A群

・2024年8月6日 11:07~11:53 男川林道 蛸崎雨量計と松山沢出合との中間地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	2		3
ワカモノ		1		1
3~4歳			1	1
2~3歳			2	2
1歳			1	1
Baby			1	1
計	1	3	5	9

9頭+α (内1 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

○ ハナレザル・オスグループ

・2024年8月6日 11:30

海峡ライン(国道338号線) 石碑北

大人オス 1頭

【 川内地区 】

○ M2-B1 群

・2024年8月7日 15:32~16:00

県道川内-佐井線(カモシカライン) 町村境の
尾根手前

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	4		8
ワカモノ	1	2	2	5
4~5歳	1		1	2
3~4歳	3		1	4
2~3歳	1		4	5
1~2歳			1	1
Baby			3	3
計	10	6	12	28

28頭+α (内3 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

○ M2-B2 群

・2024年8月6日 10:39~11:30

県道川内-佐井線(カモシカライン) 砥石沢林道出合
と湯野川開拓の中間地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	7	1	10
ワカモノ	1	3		4
3歳			4	4
2歳			4	4
1歳			4	4
Baby			7	7
計	3	10	20	33

33頭+α (内7 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

○ M2-B3 群

・2024年8月8日 15:40～16:00

畑集落西の除雪ステーション周辺

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
ワカモノ		1	1	2
4～5歳		1		1
3歳	1	1	3	5
2歳			2	2
1歳	1			1
Baby		2		2
計	3	11	6	20

20頭+α (内2 Baby)

※ Baby 持ちの大人メスに黒色の電波発信機が装着されているが、発信していない

○ 安部城北A群

・2024年8月6日 15:45～16:04

県道川内一佐井線(カモシカライン) 大滝公園南

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	11	1	13
ワカモノ			1	1
4歳	3	1		4
3歳		1	3	4
2歳			4	4
1歳	1		5	6
Baby	1		2	3
計	6	13	16	35

35頭+α (内3 Baby)

※ 電波発信機装着大人メスがい

○ ハナレザル・オスグループ

・2024年8月6日 15:03～15:25

川内ダム

《 構成 》

年齢	♂
大人	2
ワカモノ	1
4～5 歳	1
4 歳	1
計	5

オスグループ 5 頭

・ 2024 年 8 月 9 日 13:58 県道川内-佐井線(カモシカライン)スノーシェイド
大人オス 1 頭

・ 2024 年 8 月 9 日 11:30 野平地区 一本ブナ近く
5 頭 + α

※ 上記オスグループと同一の可能性あり。また、佐井管内の群れの一部の可能性もある



2024 年度 踏査ルート図 脇野沢地区 (車でのパトロールを含む)



2024 年度 踏査ルート図 川内地区 (車でのパトロールを含む)



2024年度 サル情報 脇野沢地区



3. 補足調査 (秋季)

○ A87-B 群

・2024年9月11日 9:25～11:30

九艘泊－滝山線 中細間道路

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	12		14
ワカモノ	4	2	2	8
4～5歳	1			1
3～4歳			4	4
2～3歳	1		5	6
1～2歳			3	3
1歳	1	1	2	4
Baby	2		2	4
計	11	15	18	44

44頭 (内 4Baby)

※ 大人メスに電波発信機が装着されているが電波を発信していない

○ O2-A 群 その1

・2024年9月10日

海峡ライン(国道 338 号線) 石碑北

構成とれず

30頭+α(内 2Baby)

○ O2-A 群 その2

・2024年9月20日

海峡ライン(国道 338 号線) M字カーブ北

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	8		11
ワカモノ	2	4		6
3～4歳			2	2
2～3歳	1	1	5	7
1～2歳	2		2	4
Baby			3	3
計	8	13	12	33

33頭+α (内 4Baby)

※電波発信個体はいない

○ O2-B群

・2024年9月11日

12:05~14:15

海峡ライン(国道338号線) M字カーブ北

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	18		22
ワカモノ	2	3		5
3~4歳		1	5	6
2~3歳		3	7	10
1~2歳		1	2	3
1歳			3	3
Baby			4	4
計	6	26	21	53

53頭+α (内4Baby)

※ 大人メスに電波発信機が装着されている

○ 男川B群

・2024年9月28日

海峡ライン(国道338号線) 大荒川林道分岐南

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	9		12
ワカモノ	2	3		5
3~4歳			2	2
2~3歳			3	3
2歳			2	2
1歳			1	1
Baby			4	4
計	5	12	12	29

29頭+α (内4Baby)

4. 2024 年度 冬季ニホンザル生息調査 (大畑・薬研地区)

4-1 調査の概要

2024 年 12 月 21 日から 12 月 25 日までの 5 日間、それに調査移動日の 20 日と 26 日の前後 2 日間を含めた 7 日間、14 名の調査員で、大畑川流域に生息するニホンザルの生息実態調査を実施した。

積雪の状況は、林道で 5~10 ㍍、高地では 10~20 ㍍ぐらいでかんじきがなくても踏査ができたが、調査 2 日目に降雪があり、10 ㍍~20 ㍍が加算され、かんじきなしでは歩けない状況になった。車での通行も不能となった。ただ、大畑一川内線の重兵衛沢林道までと囲沢林道内の分岐までは伐採作業をしているため除雪がしてあり、車での走行が可能であった。調査期間中、日々降雪があったものの穏やかな天候で、サル調査としては最適な条件であった。

秋の実りは、ブナ、ミズナラ、クリ、サルナシ、ヤマブドウ、ガマズミはまずまずの実り、特に、ブナは豊作であった。ニホンザルやクマにとっては秋の恵みに恵まれたシーズンであった。

4-2 調査日、ならびに各パーティごとの調査結果

◎12 月 20 日 (下見) 曇り

- ・国道 279 号線と大畑一佐井線を車で下見、積雪の状況と林道の通行可能かどうかを下見する。サルの情報は得られなかった。

◎12 月 21 日 雪のち午後より曇り

- ・大畑一佐井線、釜の沢林道分岐より 1 km 地点で引き返す。ウグイ滝林道の採石場まで、佐井線の弥一郎林道入口まで、上秋沢林道入口まで車でパトロール。サル情報なし。
- ・下近藤沢林道と上近藤沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・仁助沢林道を踏査。仁助沢の両岸で 2~3 日前の足跡の筋 5 本、7 本を確認するが、進行方向は不明。
- ・弥一郎沢林道を踏査。11:28 入口より 3 km 地点で東から西へ横断する本日分の 10 頭 + α の足跡。また、調査の帰路で 14:46~15:10 大畑一佐井線の烏沢入り口西 200m 地点でサルの群れを発見、目撃は大人オス 2 頭を含む 9 頭 + α 、大畑川の対岸から複数頭の鳴き声を確認、個体数はかなり多いと思われる。
- ・右衛門四郎沢林道と太兵衛沢林道を踏査。右衛門四郎沢林道の林道終点より 500m 地点あたりで複数頭のサルの足跡を確認。2 日ほど前のもので進行方向は不明だが、26 本の筋を確認する。
- ・大畑一佐井線を佐井との境の尾根まで踏査。滝の沢周辺で 20~25 頭ぐらいの足跡、1~2

日前のもの。進行方向葉不明。また、滝ノ沢よりも西 500m地点で 28 頭+ α の足跡、1~2 日前のもので進行方向は不明。これら二地点の足跡は同一の群れの可能性大。また、右衛門四郎沢林道の 26 本の筋の群れとも同一の可能性が高い。

- ・ 囲沢の左股、右股を踏査。サル情報なし。
- ・ 大畑一川内線の長次郎沢林道と仁部沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・ 大畑一川内線の上狄沢林道を踏査。入口より 800m地点でサルの群れの足跡。1~2 日前のもの、17 本の筋を確認するが進行方向は不明。ただ、数頭の足跡は北へ向かっていた。

◎12月22日 曇り一時雪

- ・ 弥一郎沢林道を桂平南まで踏査。サル情報はなかった。
- ・ 右衛門四郎沢林道と大畑一佐井線を踏査。大畑一佐井線の滝ノ沢出合い手前で本日分の 1 頭の足跡、西から東へ向かっていた。また、右衛門四郎沢林道入口と弥一郎沢林道入口との中間地点で 7 頭+ α の足跡、北から南へ向かっていた。
- ・ 大畑一佐井線の鳥沢入口付近を重点的に調査。鳥沢出合いより西 250m地点で今日の足跡、2 頭分を確認。
- ・ 三太郎沢林道の一つ目の左股、その奥分岐の左股を踏査したが、サル情報はなかった。
- ・ 囲沢林道の左股、右股を踏査したが、サル情報はなかった。
- ・ 大畑一川内線の階子沢林道を踏査。入口から 1.5 km地点を東から西へ横断する 1 頭分の足跡。また、入口より 2.5 km地点の沢側斜面を 2~3 日前の足跡の筋 4 本を確認。
- ・ 大畑一川内線の重兵衛沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・ 大畑一川内線の上狄沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・ 大畑一川内線の長次郎沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・ 大畑一川内線の仁部沢林道を踏査。サル情報はなかった。

◎12月23日 雪のち晴れ

- ・ 釜の沢林道をゼンマイ橋の南まで踏査。サル情報はなかった。クマの足跡を確認。
- ・ ウグイ滝沢林道を新朝比奈大橋の南まで踏査。サル情報はなかった。
- ・ 湯殿の沢林道を分岐手前まで踏査。サル情報はなかった。
- ・ 薬研野営場より北上する林道を踏査。ピーク 215 付近で北上する今日の足跡 30 頭+ α を確認。
- ・ 薬研溪流遊歩道を西から東へ踏査。途中、ピーク 215 西の林道並びにブル道を踏査。サル情報なし。
- ・ 小西股沢林道を踏査。小西股沢林道と大西股沢林道の分岐付近から小西股沢林道に今日並びに昨日の足跡が 1 頭分から 10 数頭分まで転々と確認、ほとんどが西から東へ移動していた。
- ・ 大西股沢林道を踏査。小西股沢林道との分岐から大西股沢林道の送電線下までを踏査。分

岐より 200m 南の林道を昨日分 18 本の筋、今朝の分 4 本の筋を確認。その後も大西股沢林道に今朝の足跡 1 本の筋、昨日の足跡 2 本の筋を確認する。

- ・大畑－佐井線、烏沢入口から西で道路を北から南へ移動する足跡を確認、烏沢と三太郎沢間で観察待機する。
- ・大畑－佐井線の三太郎沢出合いより東 600m 地点で北から南へ移動するサルをカウント。死角となっていた足跡分を含め、74 頭 + α を確認する。その後、三太郎沢林道の分岐手前まで踏査。すでに 2 頭分の足跡、東から西へ移動していた。
- ・大畑－佐井線の雨量観測所西 500m 地点まで、右衛門四郎沢林道終点より 400m 手前までを踏査。10:35 右衛門四郎沢入口で 1 頭のサルを目撃、11:10 まで叫び声をよくあげていた。その後このサルは大畑－佐井線の道路を北から南へ移動していった。また、14:20 足跡 3 頭分が道路を南から北へ移動し、弥一郎沢出合付近、よく叫ぶ 1 頭の声を確認した。
- ・大畑－川内線の仁部沢の林道出合いまでを車でパトロール、その後、弥一郎沢林道を送電線直下まで踏査。サル情報はなかった。

◎12 月 24 日 雪のち曇り

- ・薬研遊歩道から佐藤平林道への林道を踏査。大西股沢林道からの伸びる道との合流点近くで 3 本の筋になっている足跡を確認。進行方向は不明、1～2 日ほどの前のもの。
- ・薬研野営場から佐藤平林道へ続く林道を踏査。サル情報なし。
- ・小西股沢林道を送電線直下より北 250m 付近まで踏査。昨日分の足跡は確認できたが、新しいものはなかった。
- ・大西股沢林道を送電線直下より 400m ぐらいの地点まで踏査。昨日分の足跡は確認できたが、新しいものはなかった。
- ・大畑－佐井線の三太郎沢出合いから川内線の分岐までを車でパトロール。三太郎沢林道の左股並びに三つ又分岐までを踏査。新右衛門沢林道、下獅子沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・上近藤沢林道、下近藤沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・弥一郎沢林道、大畑－佐井線の滝ノ沢出合い東 400m 地点までを踏査。12:30～13:30 大畑－佐井線の雨量観測所より西 200m 地点でサルの群れを発見。東から西へ道路を横断していた。目視 3 頭、足跡 22 頭分を数えるが、まだ東側斜面に複数頭いることが鳴き声から確認できた。
- ・困沢林道の入口までを車でパトロール。右衛門四郎沢林道、弥一郎沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・自然の家から調査地に向かう途中、木野部峠の新道の橋付近で 8:45～8:55 5 頭 + α を目撃。別の調査員にバトンタッチする。ただ、その後、これ以上のサル情報は得られなかった。
- ・大畑－川内線の長次郎沢林道を踏査。サル情報はなし。

- ・大畑－川内線の上狄沢林道を踏査。サル情報はなし。

◎12月25日 晴れ 穏やか

- ・ウグイ滝沢林道を踏査。11:55～12:43 新朝比奈大橋の南西 150m 地点でサルの群れを発見。10 頭(大人オス 1、Baby2 頭を含む)を目視した。鳴き声などから 10 頭+ α を確認する。
- ・釜の沢林道を踏査。ゲートすぐの道路に昨日分の足跡、大 1, 中 1 南西から北東へ移動していた。また、ゲートから 1 km 奥の橋の手前で 2 日前の足跡 1 頭分を確認、進行方向は不明。
- ・調査地へ向かう途中、8:50～14:00 旧二枚橋小学校南の休耕畑で 7 頭のサルを目視、電波発信機情報から Ko-A2-b 群。その後、バイパス新道を東の海側から西の山側へ横断する 19 頭の足跡とまだ海側にいる 6 頭(大人オス 2 を含む)を観察。横断したサルのうち 12 頭(大人オス 1、Baby2 を含む)の構成がとれる。ツルウメモドキ、カキ、放置野菜等を採食していた。
- ・高橋川林道を踏査。高橋川林道の終点近くで 6 頭+ α の足跡、24 日以前のもの。クマの新しい足跡を確認。
- ・関根橋集落、ならびに小目名沢林道を車でパトロールと踏査。サル情報なし。
- ・昼飯場沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・曾古部川林道を踏査。サル情報なし。
- ・葉研野営場から佐藤平林道へ続く林道を大西股林道との分岐まで、帰路は一つ東の沢を下るルートで踏査。サル情報はなかった。
- ・大畑－佐井線を川内との分岐までを車でパトロール。サル情報はなかった。クマ 1 頭分の新しい足跡を確認した。

※ 冬季調査において積雪の状況は調査の成果を大きく左右する。今回、積雪はあったものの最終日を除く毎日、昼夜に断続的に降雪があり、足跡を確認しても本日分なのか、前日または前々日のものなのか、この判断が難しいくらいの条件だった。また、風の通り道や突風も足跡の新旧の判断を難しくしていた。よって、今回の報告では、足跡の筋という表現が多く、進行方向が不明という結果が目立つ報告となっている。

4-3 冬季ニホンザル生息調査中に確認した群れの結果

【 ゲート東側 大畑川下流部 】

○ I2-A1群(キノップA群) または I2-A2群(キノップB群)

・ 2024年12月24日 8:45~8:55 木野部峠の新道の橋付近
構成とれず 5頭+α

大人メス2 ワカモノ性不明1 2~3歳性不明1)

○ Ko-A2-b群(イロハB2群)

・ 2024年12月25日 8:50~14:00 国道279号線 新道 大畑道集落周辺
《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	6	1	10
ワカモノ	1	1	1	3
4歳	1		1	2
3歳		1	1	2
2歳			2	2
1歳			4	4
Baby			2	2
計	5	8	12	25

25頭+α (内2Baby)

※大人のメスに電波発信機が装着されている

○ Ka群

・ 2024年12月23日 小西股林道 佐藤平林道との分岐周辺
構成とれず 16頭+α【足跡】

○ Ko-A1群(イロハA群)

・ 2024年12月23日 薬研野営場から佐藤平へ上る林道
構成とれず 30頭+α【足跡】

○ S2群(恐山の群れ)

・2024年12月25日 11:55~12:43

ウグイ滝沢林道 中流部

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ		1		1
2歳			1	1
Baby	1		1	2
計	2	6	2	10

10頭+α (内2Baby)

※ 今回の調査で釜の沢林道でサルの群れの確認がなかったことで、尾根ひとつ西で確認したこの群れをS2群(恐山の群れ)とした。

○ 不明群 (Ko-B1群(ハイロA群) または Ko-B2群(ハイロB群))

・2024年12月25日

高橋川林道中流部

構成とれず

6頭+α【足跡】

○ ハナレザル・オスグループ

・2024年12月25日 釜の沢林道ゲート近く

足跡大1、中1 2頭分

【 ゲート西側 大畑川上流部 】

○ I3-A群

・2024年12月23日

大畑-佐井線 烏沢林道出合と三太郎沢林道出合との間 道路を左岸から右岸へ横断する時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	11	11		22
ワカモノ	4	3	3	10
4~5歳	4		6	10

3～4 歳			14	14
2 歳			2	2
1 歳			4	4
Baby			4	4
不明			8	8
計	19	14	41	74

74 頭 + α (内 4Baby)

※不明 8 頭の内 7 頭は足跡による確認。

○ M2-A 群関連の 4 群(M2-A1 群 M2-A2 群 M2-A3 群 M2-A4 群)

観察場所と個体数からの推定

○M2-A1 群(弥一郎沢の群れ)

- ・ 2024 年 12 月 21 日
構成とれず

大畑一佐井線 右衛門四郎沢出合より西

28 頭 + α 【足跡】

○M2-A2 群(上狄沢の群れ)

- ・ 2024 年 12 月 21 日
構成とれず

上狄沢林道入口より 800m 地点

17 頭 + α 【足跡】

※17 頭は 17 本の筋、複数頭が通った跡

○M2-A3 群(圀沢の群れ)

- ・ 2024 年 12 月 22 日
構成とれず

階子沢林道入口より 2.5 km 地点の沢側斜面

4 頭 + α 【足跡】

※4 頭は 4 本の筋、複数頭が通った跡。一筋一筋が深く掘れており、多頭数が通ったことが読みとれた。

○群れ名が不明

- ・ 2024 年 12 月 21 日
構成とれず

弥一郎沢林道 送電線北を東から西へ横断

10 頭 + α 【足跡】

- ・ 2024 年 12 月 21 日
構成とれず

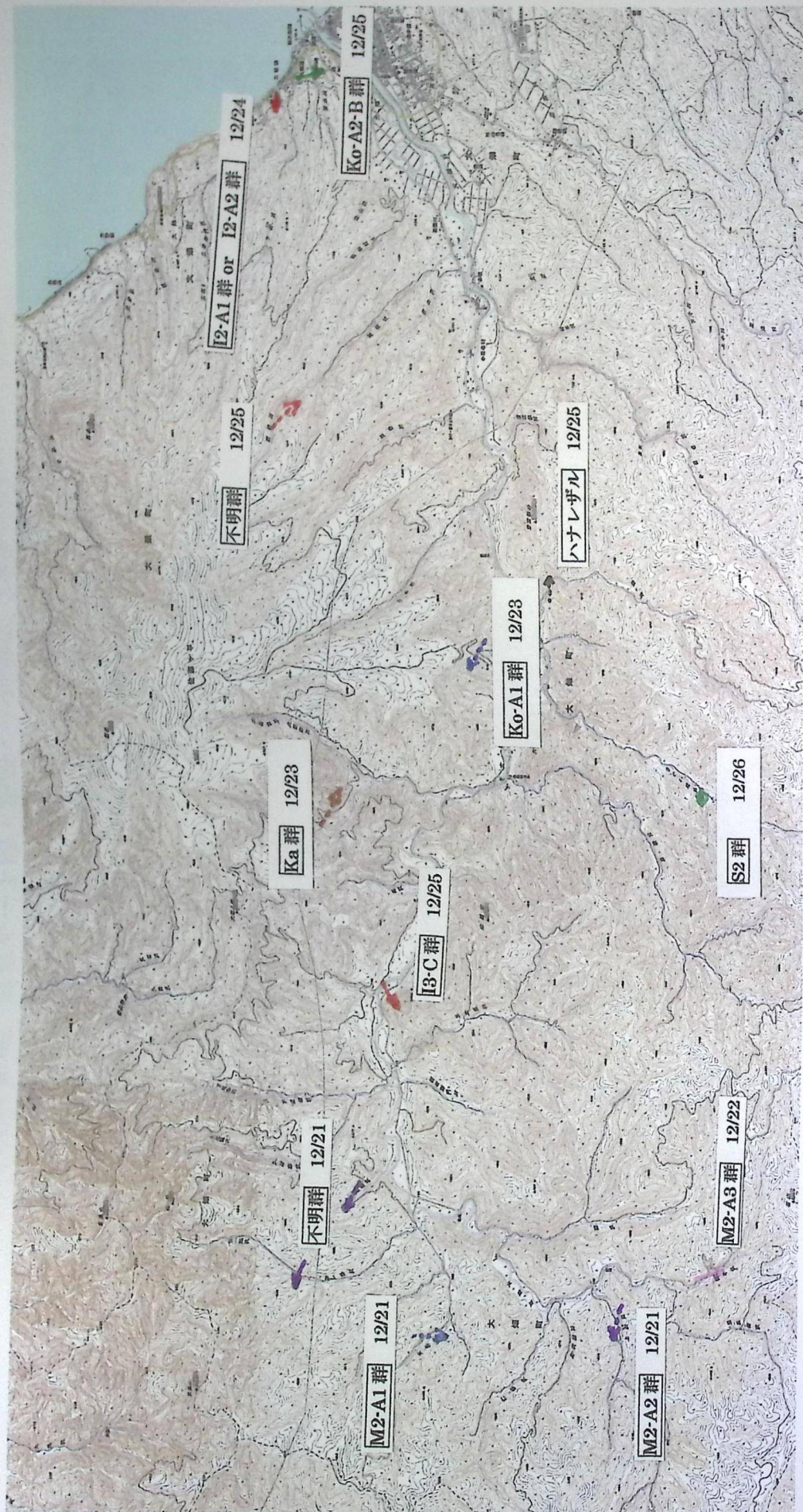
仁部沢林道

8 頭 + α 【足跡】

※8 頭は 8 本の筋、複数頭が通った跡



2024年度 踏査ルート図 薬研・大畑地区 (車でのパトロールを含む)



5. 補足調査(冬季)

○ A2-84A 群

・2025年1月20日
構成とれず

七引地区 国道338号線を東から西へ移動時
24頭+α【足跡】

・2025年2月2日 12:00~14:30

牛の首公園広場

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	7		8
ワカモノ	2			2
5~6歳	2			2
3~4歳			3	3
2~3歳			4	4
1~2歳	1		2	3
Baby			2	2
計	6	7	11	24

24頭(内2Baby)

※大人オスに電波発信機が装着されている。大人メスに装着されている発信機は発信していない。

○ A2-84B 群

・2025年2月2日

10:20~10:50

白岩 海岸線

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	3		4
3~4歳	1			1
2~3歳	1	1		2
1~2歳	1	1		2
計	4	5		9

9頭

※大人メス3頭に電波発信機が装着されているが、発信しているのは1頭のみ。

※2024年の夏から秋にかけて大人オス1頭が群れに入った。

○ A2-85 群

・ 2025 年 1 月 29 日

14:45～15:00

国道 338 号線 口広林道出合地点
の送電線を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ		5		5
3 歳	1			1
2～3 歳		2		2
2 歳	1	2		3
1～2 歳		2		2
1 歳		1		1
Baby	1	1	2	4
計	4	18	2	24

24 頭(内 4Baby)

※大人メス 4 頭に電波発信機を装着、1 頭のみが電波を発信している。

○ A87-A 群

・ 2025 年 2 月 3 日

9:20～11:30

芋田地区の海岸を東から西へ移動

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	29		33
ワカモノ	5	5		10
5～6 歳	3			3
4～5 歳	2		2	4
3～4 歳	6	1	2	9
2～3 歳	3	7		10
1～2 歳	7	4		11
Baby	1	1	11	13
計	31	47	15	93

93 頭(内 13Baby)

※ワカモノ♀3 頭に電波発信機を装着、2 頭が電波を発信している。

※Baby は 15 頭誕生。1 頭は行方不明、もう 1 頭は親子で捕獲駆除された。

○ M2-B3 群 その2

・2025年2月27日 10:25～10:50

旧湯野川小学校と畑集落間 県道川
内一佐井線を西から東へ横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	8		12
ワカモノ	1	3	3	7
2～3歳			3	3
1～2歳			2	2
1歳			4	4
Baby			2	2
計	5	11	14	30

30頭(内2Baby)

※大人メスに電波発信機を装着している

○ I2-A1 群 (キノップA群)

・2025年3月4日 14:05～14.40

国道279号線 木野部峠 ハーモニー
橋北200m地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	8		10
ワカモノ	1	1	1	3
3～4歳			1	1
2～3歳		1	2	3
2歳			2	2
B～1歳			2	2
Baby			6	6
計	3	10	14	27

27頭(内6Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

○ I2-A1 群 (キノップB群)

・2025年3月10日 12:05～12:25

国道279号線 木野部峠 新しい橋付近

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
--	---	---	-----	---

オトナ	1	5		6
ワカモノ	1			1
4 歳			1	1
3 歳		1		1
Baby			2	2
計	2	6	3	11

11 頭(内 2Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

○ I2-C 群

・ 2025 年 3 月 4 日 12:20~14:00

国道 279 号線 木野部峠 旧道を山側
から谷側へ道路横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	6	7		13
ワカモノ	4	2	2	8
3~4 歳	1			1
3 歳	1			1
2~3 歳	1		1	2
2 歳			2	2
1 歳			2	2
Baby			2	2
計	13	9	9	31

31 頭(内 2Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

※2025 年 3 月 4 日に木野部峠でほぼ同時刻に別の地点で二つの群れを確認した。個体数、発見場所、電波発信機の状態などから I2-A1 群(キノップ A 群)と I2-C 群と推測したが、群れの識別が困難なことから、今報告では便宜上ハーモニー橋北の群れを I2-A1 群(キノップ A 群)とし、旧道の群れを I2-C 群とした。I2-C 群には鼻が大きく切れ、不具合な形状になっているワカモノのオスがいます。また、I2-A1 群(キノップ A 群)には Baby が 6 頭とやや多い。同日この 2 群を観察中、野猿監視員が通りがかり、「今、赤川地区でサルの群れが出没している。その現場に向かっている」との情報を得る。この群れは 2023 年 12 月 23 日に下北自然の家近くで確認した 20 頭 + α (2B) の群れと同一と思われる。2023 年度の報告では風間浦村管轄の群れとしている。

現状で得ている情報を整理してみると、下北自然の家から大畑町の運動公園までの間に I2-A1 群(キノップ A 群)、 I2-A2 群(キノップ B 群)、 I2-C 群、 Ko-A2-b 群(イロハ B2 群)、風間浦管轄の群れの 5 群が遊動域を持っている。I2-C 群、 Ko-A2-b 群(イロハ B2 群)、風間浦管轄の群れの 3 群は木野部峠がたまたま遊動域の端っこであり、主なる遊動域としているのは I2-A1 群(キノップ A 群)、 I2-A2 群(キノップ B 群)の 2 群である。Ko-A2-b 群(イロハ B2 群)は電波発信機装着個体がいる。

○ Ko-B1 群(ハイロ A 群)

・2025 年 3 月 4 日 10:30~11:00

県道大畑-佐井線 貯木場対面を西から
東へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	13		15
ワカモノ		2	1	3
4~5 歳			2	2
3 歳		1		1
2~3 歳	1		1	2
2 歳		1		1
1~2 歳	1		1	2
1 歳	1		1	2
Baby	1		2	3
計	6	17	8	31

31 頭(内 3Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

○ Ko-B2 群(ハイロ B 群)

・2025 年 3 月 4 日 11:35~12:05

県道大畑-佐井線 羽色神社東斜面

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
ワカモノ	2			2
4~5 歳	1			1
3~4 歳		1	2	3
2~3 歳			1	1
2 歳			3	3

1～2 歳		1		1
1 歳		1		1
計	4	9	6	19

19 頭 + α

※電波発信機は装着されていない

※Baby の確認ができなかった

○ 不明群

・ 2025 年 1 月 11 日

14:00～14:20

国道 338 号線 むつ市堺田地区 ファミ
リーマートの向かい

構成とれず

15 頭 + α (内 2Baby)

大人オス 4 頭を確認 + α は多数、

※電波発信機は装着されていない

○ ハナレザル

・ 2025 年 3 月 10 日

10:25

国道 338 号線 旧戸沢小学校対面の山側の休耕地
老オス 1 頭

6. 2024 年度 各群れごとの結果

【 脇野沢地区 】

◎ A2-84A 群

・ 2025 年 2 月 2 日 12:00～14:30

牛の首公園広場

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	7		8
ワカモノ	2			2
5～6 歳	2			2
3～4 歳			3	3
2～3 歳			4	4
1～2 歳	1		2	3
Baby			2	2
計	6	7	11	24

24 頭(内 2Baby)

※大人オスに電波発信機が装着されている。大人メスに装着されている発信機は発信していない。

◎ A2-84B 群

・ 2025 年 2 月 2 日 10:20～10:50

白岩 海岸線

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	3		4
3～4 歳	1			1
2～3 歳	1	1		2
1～2 歳	1	1		2
計	4	5		9

9 頭

※大人メス 3 頭に電波発信機が装着されているが、発信しているのは 1 頭のみ。

※2024 年の夏から秋にかけて大人オス 1 頭が群れに入った。

◎ A2-85 群

・ 2025 年 1 月 29 日 14:45～15:00

国道 338 号線 口広林道出合地点の
送電線を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ		5		5
3 歳	1			1
2～3 歳		2		2
2 歳	1	2		3
1～2 歳		2		2
1 歳		1		1
Baby	1	1	2	4
計	4	18	2	24

24 頭(内 4Baby)

※大人メス 4 頭に電波発信機を装着、1 頭のみが電波を発信している。

◎ A87-A 群

・ 2025 年 2 月 3 日 9:20～11:30

芋田地区の海岸を東から西へ移動

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	29		33
ワカモノ	5	5		10
5～6 歳	3			3
4～5 歳	2		2	4
3～4 歳	6	1	2	9
2～3 歳	3	7		10
1～2 歳	7	4		11
Baby	1	1	11	13
計	31	47	15	93

93 頭(内 13Baby)

※ワカモノ ♀ 3 頭に電波発信機が装着され、2 頭が電波を発信している。

※Baby は 15 頭誕生。1 頭は行方不明、もう 1 頭は親子で捕獲駆除された。

◎ A87-B 群

・ 2024 年 9 月 11 日 9:25～11:30

九艘泊一滝山線 中細間道路

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	12		14
ワカモノ	4	2	2	8
4～5歳	1			1
3～4歳			4	4
2～3歳	1		5	6
1～2歳			3	3
1歳	1	1	2	4
Baby	2		2	4
計	11	15	18	44

44頭 (内 4Baby)

※ 大人メス 2頭に電波発信機を装着しているが、1頭のみが電波を発信している。新しく電波発信機装着作業中、Babyが死亡した。

◎ 01-A1 群

・2024年8月9日

10:50～11:08

滝山神社西の林道を北から南へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	9		10
ワカモノ		1	1	2
3歳			3	3
2～3歳			1	1
2歳			1	1
1歳			4	4
Baby			2	2
計	1	10	12	23

23頭+α (内 2 Baby)

※大人メス 2頭に電波発信機が装着されている。ただし1頭の電波発信機は電波を発信していない

◎ 01-A2 群

・2024年8月7日

9:10～11:10

田の頭林道を南から北へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
--	---	---	-----	---

オトナ	4	22		26
ワカモノ	1	3		4
4～5 歳		1	3	4
4 歳	1		2	3
3 歳	1	1	7	9
2 歳			7	7
1 歳		1	8	9
Baby			9	9
計	7	28	36	71

71 頭 + α (内 9 Baby)

※ 大人メスに電波発信機が装着されている

◎ 01-B 群

・ 2024 年 8 月 7 日

14:40～14:55

下滝山沢林道を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	13		17
ワカモノ	3	2		5
3 歳			2	2
2～3 歳			3	3
2 歳			2	2
1～2 歳			1	1
1 歳			1	1
Baby	1		4	5
計	8	15	13	36

36 頭 + α (内 5 Baby)

※ 大人メスに電波発信機が装着されている

◎ 02-A 群 その 1

・ 2024 年 9 月 10 日

海峡ライン(国道 338 号線) 石碑北

構成とれず

30 頭 + α (内 2Baby)

◎ O2-A 群 その2

・2024年9月20日

海峡ライン(国道338号線) M字カーブ北

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	8		11
ワカモノ	2	4		6
3～4歳			2	2
2～3歳	1	1	5	7
1～2歳	2		2	4
Baby			3	3
計	8	13	12	33

33頭+α (内4Baby)

※電波発信個体はいない

※O2-A 群に関しては2021年の調査で69頭+α(15Baby)の観察がある。その後、この個体数と同等もしくは超えた観察はない。よって、分裂している可能性が高く、今回の調査で国道338号線(海峡ライン)のゲートから流汗台までの間で観察した群れを精査し、O2-A 群その1とO2-A 群その2とした。生息域が重なるO2-B 群との識別は、O2-B 群には電波発信機装着メス個体がいることである。ただ、生息域が重なる男川B 群との違いは識別できる個体等がないため、判断が難しい状況である。現状では国道338号線のゲートより北で、O2-A 群その1、O2-A 群その2、O2-B 群(電波発信機あり)、男川B 群の4群とゲート近くまで遊動域を広げているO1-B 群(電波発信機あり)の5群が生息している。

◎ O2-B 群

・2024年9月11日

12:05～14:15

海峡ライン(国道338号線) M字カーブ北

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	18		22
ワカモノ	2	3		5
3～4歳		1	5	6
2～3歳		3	7	10
1～2歳		1	2	3
1歳			3	3
Baby			4	4

計	6	26	21	53
---	---	----	----	----

53頭+α (内4Baby)

※ 大人メスに電波発信機が装着されている

◎ 男川A群

・2024年8月6日 11:07~11:53 男川林道 蛸崎雨量計と松山沢出合との中間地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	2		3
ワカモノ		1		1
3~4歳			1	1
2~3歳			2	2
1歳			1	1
Baby			1	1
計	1	3	5	9

9頭+α (内1 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ 男川B群

・2024年9月28日

海峡ライン(国道338号線) 大荒川林道分岐南

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	9		12
ワカモノ	2	3		5
3~4歳			2	2
2~3歳			3	3
2歳			2	2
1歳			1	1
Baby			4	4
計	5	12	12	29

29頭+α (内4Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ ハナレザル・オスグループ

・2024年8月6日 11:30

海峡ライン(国道338号線) 石碑北

大人オス 1頭

【 川内地区 】

◎ M2-B1 群

・2024年8月7日 15:32~16:00

県道川内-佐井線(カモシカライン) 町村境の
尾根手前

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	4		8
ワカモノ	1	2	2	5
4~5歳	1		1	2
3~4歳	3		1	4
2~3歳	1		4	5
1~2歳			1	1
Baby			3	3
計	10	6	12	28

28頭+α (内3 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ M2-B2 群

・2024年8月6日 10:39~11:30

県道川内-佐井線(カモシカライン) 砥石沢林道出合
と湯野川開拓の中間地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	7	1	10
ワカモノ	1	3		4
3歳			4	4
2歳			4	4
1歳			4	4
Baby			7	7
計	3	10	20	33

33頭+α (内7 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ M2-B3 群 その1

・2024年8月8日 15:40～16:00

畑集落西の除雪ステーション周辺

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
ワカモノ		1	1	2
4～5歳		1		1
3歳	1	1	3	5
2歳			2	2
1歳	1			1
Baby		2		2
計	3	11	6	20

20頭+α (内2 Baby)

※ Baby 持ちの大人メスに黒色の電波発信機が装着されているが、発信していない

◎ M2-B3 群 その2

・2025年2月27日 10:25～10:50

旧湯野川小学校と畑集落間 県道川
内一佐井線を西から東へ横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	8		12
ワカモノ	1	3	3	7
2～3歳			3	3
1～2歳			2	2
1歳			4	4
Baby			2	2
計	5	11	14	30

30頭(内2Baby)

※大人メスに電波発信機を装着している

※M2-B3 群については、2022年の調査で45頭+αの個体数をカウントしていた。また、電波発信機装着メス個体があったこともあり、毎年群れの確認していた。2023年の調査では17頭+αの個体数のカウントだった。2024年になり電波発信機装着個体の確認状況と個体数の状況から分裂している可能性が高いと判断し、その1とその2とした。ともに電波発信機

を装着しているが、その1は電波を発信していない。

◎ 安部城北A群

・2024年8月6日 15:45～16:04 県道川内-佐井線(カモシカライン) 大滝公園南

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	11	1	13
ワカモノ			1	1
4歳	3	1		4
3歳		1	3	4
2歳			4	4
1歳	1		5	6
Baby	1		2	3
計	6	13	16	35

35頭+α (内3 Baby)

※ 電波発信機装着大人メスがいます。

◎ 安部城北B群

今回の調査で未確認

◎ 湯の小沢の群れ

今回の調査で未確認

※2023年度の報告で2023年11月12日蓑川地区で捕獲した4～5歳のメスに電波発信機を装着、その個体の群れを湯の小沢野群れの可能性があるとしていたが、この群れは、安部城北B群の個体の可能性が高いことがその後判明した。

◎ ハナレザル・オスグループ

・2024年8月9日 13:58 県道川内-佐井線(カモシカライン)スノーシェイド

大人オス 1頭

< 参考 >

・2024年8月6日

15:03~15:25

川内ダム

< 構成 >

年齢	♂
大人	2
ワカモノ	1
4~5歳	1
4歳	1
計	5

オスグループ

5頭

・2024年8月9日

11:30

野平地区

一本ブナ近く

5頭+α

※上記川内ダムならびに野平地区で観察したサルは、佐井村管内のZ群関連の群れと関りがあると判断し、参考資料として記載する。

【 大畑・薬研地区 】

【 ゲート東側 大畑川下流部 】

◎ I2-A1群 (キノップA群)

・2025年3月4日

14:05~14:40

国道279号線 木野部峠 ハーモニー
橋北200m地点

< 構成 >

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	8		10
ワカモノ	1	1	1	3
3~4歳			1	1
2~3歳		1	2	3
2歳			2	2
B~1歳			2	2
Baby			6	6
計	3	10	14	27

27 頭(内 6Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

※今回の報告の I2-C 群と群れの識別ができていないため、I2-C 群の可能性もある。

◎ I2-A1 群 (キノップ B 群)

・ 2025 年 3 月 10 日 12:05~12:25 国道 279 号線 木野部峠 新しい橋付近
《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ	1			1
4 歳			1	1
3 歳		1		1
Baby			2	2
計	2	6	3	11

11 頭(内 2Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

◎ I2-C 群

・ 2025 年 3 月 4 日 12:20~14:00 国道 279 号線 木野部峠 旧道を山側
から谷側へ道路横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	6	7		13
ワカモノ	4	2	2	8
3~4 歳	1			1
3 歳	1			1
2~3 歳	1		1	2
2 歳			2	2
1 歳			2	2
Baby			2	2
計	13	9	9	31

31 頭(内 2Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

※今回の報告の I2-A1 群 (キノップ A 群)と群れの識別ができていないため、
I2-A1 群 (キノップ A 群)の可能性もある。

◎ Ka 群

- ・ 2024 年 12 月 23 日 小西股林道 佐藤平林道との分岐周辺
- ・ 構成とれず 16 頭 + α 【足跡】

◎ Ko-A1 群(イロハ A 群)

- ・ 2024 年 12 月 23 日 葉研野営場から佐藤平へ上る林道
- 構成とれず 30 頭 + α 【足跡】

◎ Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)

今回の調査で確認できなかった。

※ 大人メスに電波発信機が装着されている。

◎ Ko-A2-b 群(イロハ B2 群)

- ・ 2024 年 12 月 25 日 8:50~14:00 国道 279 号線 新道 大畑道集落周辺
- 《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	6	1	10
ワカモノ	1	1	1	3
4 歳	1		1	2
3 歳		1	1	2
2 歳			2	2
1 歳			4	4
Baby			2	2
計	5	8	12	25

25 頭 + α (内 2Baby)

※大人のメスに電波発信機が装着されている

◎ Ko-B1 群(ハイロ A 群)

・2025 年 3 月 4 日 10:30～11:00

県道大畑－佐井線 貯木場対面を西から
東へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	13		15
ワカモノ		2	1	3
4～5 歳			2	2
3 歳		1		1
2～3 歳	1		1	2
2 歳		1		1
1～2 歳	1		1	2
1 歳	1		1	2
Baby	1		2	3
計	6	17	8	31

31 頭(内 3Baby) + α

※電波発信機は装着されていない

◎ Ko-B2 群(ハイロ B 群)

・2025 年 3 月 4 日 11:35～12:05

県道大畑－佐井線 羽色神社東斜面

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
ワカモノ	2			2
4～5 歳	1			1
3～4 歳		1	2	3
2～3 歳			1	1
2 歳			3	3
1～2 歳		1		1
1 歳		1		1
計	4	9	6	19

19 頭 + α

※電波発信機は装着されていない

※Baby の確認ができなかった

◎ S2 群(恐山の群れ)

・2024年12月25日 11:55~12:43

ウグイ滝沢林道 中流部

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ		1		1
2歳			1	1
Baby	1		1	2
計	2	6	2	10

10頭+α (内2Baby)

【 ゲート西側 大畑川上流部 】

◎ I3-A 群

・2024年12月23日

大畑-佐井線 鳥沢林道出合と三太郎沢林道出合との間 道路を左岸から右岸へ横断する時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	11	11		22
ワカモノ	4	3	3	10
4~5歳	4		6	10
3~4歳			14	14
2歳			2	2
1歳			4	4
Baby			4	4
不明			8	8
計	19	14	41	74

74頭+α (内4Baby)

※不明8頭の内7頭は足跡による確認。

◎ M2-A1 群(弥一郎沢の群れ)

・2024年12月21日

大畑-佐井線

右衛門四郎沢出合より西

構成とれず

28頭+α 【足跡】

◎ M2-A2 群(上狄沢の群れ)

・2024年12月21日

上狄沢林道入口より800m地点

構成とれず

17頭+ α 【足跡】

※17頭は17本の筋、複数頭が通った跡

◎ M2-A3 群(囲沢の群れ)

・2024年12月22日

階子沢林道入口より2.5km地点の沢側斜面

構成とれず

4頭+ α 【足跡】

※4頭は4本の筋、複数頭が通った跡

◎ 群れ名が不明

・2024年12月21日

弥一郎沢林道 送電線北を東から西へ横断

構成とれず

10頭+ α 【足跡】

・2024年12月21日

仁部沢林道

構成とれず

8頭+ α 【足跡】

※8頭は8本の筋、複数頭が通った跡

この2つの群れは足跡の方向から同一の群れの可能性あり。

◎ S1-A 群(新田A群)

今回は未調査

◎ S1-B 群(新田B群)

今回は未調査

※「脇野沢・川内地区」・「大畑・葉研地区」以外のむつ市

◎ 不明群

・2025年1月11日

14:00~14:20

国道338号線 むつ市堺田地区 ファミ
リーマートの向かい

構成とれず

15頭+ α (内2Baby)

大人オス4頭を確認 + α は多数

※電波発信機は装着されていない

◎ ハナレザル

・2025年3月10日

10:25

国道338号線 旧戸沢小学校対面の山側の休耕地

老オス 1頭

Ⅲ まとめ

.2024 年度むつ市管内のニホンザル生息実態調査の結果

	群れ名	個体数	調査日	調査地	2023 年度
脇野沢・川内地区					
1)	A2-84A 群	24 頭(2B)	2025-2-2	牛の首公園広場	26 頭 (4B)
2)	A2-84B 群	9 頭	2025-2-2	白岩 海岸線	8 頭+ α
3)	A2-85 群	24 頭(4B)	2025-1-29	口広地区 海岸線	24 頭 (5B)
4)	A87-A 群	93 頭(13B)	2025-2-3	芋田地区 海岸線	91 頭 (14B)
5)	A87-B 群	44 頭+ α (4B)	2024-9-11	九艘泊一滝山線 中細間	41 頭+ α (7B)
6)	O1-A1 群	23 頭+ α (2B)	2024-8-9	滝山神社西 林道横断時	30 頭 (7B)
7)	O1-A2 群	71 頭(9B)	2024-8-7	田の頭林道 南から北へ	64 頭 (10B)
8)	O1-B 群	36 頭+ α (5B)	2024-8-7	下滝山林道 東から西へ	34 頭+ α (3B)
9)	O2-A 群 その 1	30 頭+ α (2B)	2024-9-10	国道 338 号線 石碑北	64 頭+ α (10B)
	O2-A 群 その 2	33 頭+ α (4B)	2024-9-20	国道 338 号線 M 字カーブ北	
10)	O2-B 群	53 頭+ α (4B)	2024-9-11	国道 338 号線 M 字カーブ北	18 頭+ α (2B)
11)	男川 A 群	9 頭+ α (1B)	2024-8-6	男川林道 蛸崎雨量計北	23 頭+ α (3B)
12)	男川 B 群	29 頭+ α (4B)	2024-9-28	国道 338 号 大荒川林道分岐南	34 頭+ α (5B)
13)	M2-B1 群	28 頭+ α (3B)	2024-8-7	川内-佐井線 町村境	21 頭+ α (2B)
14)	M2-B2 群	33 頭+ α (7B)	2024-8-6	川内-佐井線 砥石沢林 道出合南	30 頭+ α (6B)
15)	M2-B3 群 その 1	20 頭+ α (2B)	2024-8-6	畑地区 除雪ステーショ ン周辺	17 頭+ α (2B)
	M2-B3 群 その 2	30 頭 (2B)	2025-2-27	川内-佐井線 旧湯野川 小学校南	
16)	湯の小川沢の 群れ	未確認			未確認
17)	安部城北 A 群	35 頭+ α (3B)	2024-8-6	川内-佐井線 大滝公園 南	39 頭+ α (4B)
18)	安部城北 B 群	未確認			39 頭+ α (5B)

大畑・葉研地区					
19)	I2-A1 群 (キノップ A 群)	27 頭 + α (6B)	2025-3-4	国道 279 号線 木野部峠	26 頭 (3B)
20)	I2-A2 群 (キノップ B 群)	11 頭 + α (2B)	2025-3-10	国道 279 号線 木野部峠	未確認
21)	I2-C 群	31 頭 + α (2B)	2025-3-4	国道 279 号線 木野部峠	38 頭 + α 【足跡】
22)	Ka 群	16 頭 + α 【足跡】	2024-12-23	小西股林道	多数の足跡
23)	Ko-A1 群 (イロハ A 群)	30 頭 + α 【足跡】	2024-12-23	葉研野営場北の佐藤平へ 続く林道	65 頭 + α 【足跡】
24)	Ko-A2-a 群 (イロハ B1 群)	未確認			73 頭 (11B)
25)	Ko-A2-b 群 (イロハ B2 群)	25 頭 + α (2B)	2024-12-25	国道 279 号線 新道 大 畑道集落	25 頭 (6B)
26)	Ko-B1 群 (ハイロ A 群)	31 頭 + α (3B)	2025-3-4	佐井-大畑線 貯木場	40 頭 + α (9B)
27)	Ko-B2 群 (ハイロ B 群)	19 頭 + α	2025-3-4	佐井-大畑線 羽色神社 東	18 頭 + α 【足跡】
28)	I3-A 群	74 頭 + α (4B)	2024-12-23	佐井-大畑線 鳥沢林道 出合西	42 頭 + α 【足跡】
29)	M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)	28 頭 + α 【足跡】	2024-12-21	佐井-大畑線 右衛門四 郎沢出合西	49 頭 + α (4B) 【目視・足跡】
30)	M2-A2 群 (上狄沢の群れ)	17 頭 + α 【足跡】	2024-12-21	大畑-川内線 上狄沢林 道	43 頭 + α 【目視・足跡】
31)	M2-A3 群 (囲井沢の群れ)	4 頭 + α 【足跡】	2024-12-22	大畑-川内線 階子沢林 道	a 16 頭 + α 【足跡】
32)	M2-A4 群 (三太郎沢の群れ)	未確認			b 23 頭 + α c 16 頭 + α
	不明群	①10 頭 + α 【足跡】 ②8 頭 + α 【足跡】	2024-12-21 2024-12-21	大畑-佐井線 弥一郎沢 林道 大畑-佐井線 仁部沢林 道	
33)	S1-A 群 (新田 A 群)	未調査			未調査

34)	S1-B 群 (新田 B 群)	未調査			未調査
35)	S2 群 (恐山の群れ)	10 頭 + α	2024-12-25	ウグイ滝沢林道 中流部	未確認
	不明群	15 頭 + α (2B)	2024-1-11	国道 338 号線 堺田地区	

- ※ 2022 年度の報告書まで B 群と U 群の情報を記載していたが、長らく群れの確認がとれておらず、未掲載とした。ただ、男川の群れが B 群そのものか、B 群由来の群れである可能性が高いということを記しておく。
- ※ 脇野沢・川内地区の群れは電波発信機が装着している群れや、群れに特徴のあるサルがいて、群れの同定が可能な群れが多く、群れの重複の可能性は少ない。ただ、やはり一斉調査で同日同時刻に群れの観察をするという基本は必要と思われる。
- ※ 2024 年の山の実りの状況は、ブナが豊作、ミズナラ・サルナシ・ヤマブドウ・ガマズミ等はまずまずの実り、カラスザンショ・マタタビは不作といった状況だった。ブナの豊作は 9 月中旬から翌 3 月末までの長期間、サルたちはブナの実を拾い食いに固執、20 cm ぐらいの積雪も雪をかいて食べに食べた。樹皮食いや冬芽食いもちろん観察していたが、ブナの落実の拾い食いが今冬の食を支え、遊動域もブナのある尾根筋にこだわっていた。
- ※ 冬季調査中の積雪の量は、調査開始日はかんじきがなくても踏査ができる状況だったが、その後の積雪でかんじきを必要とした。また、車で入山も大畑－川内線が伐採作業のために除雪がしてあり通行可能であったが、それ以外の林道はすべて通行不能であった。
- ※ 冬季調査で足跡の情報は必要不可欠であるが、今冬の調査では足跡の残り方が一本の筋となっていることが多く、個体数を数えるには困難な状況が多くあった。
- ※ 大畑・薬研地区の Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)・S1-A 群(新田 A 群)・S1-B 群(新田 B 群)の調査は、調査日の都合上未調査となった。補足調査でも主体を大畑川流域にしたため、この 3 群を調査できなかった。特に、Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)は個体数も多く、また遊動域が国道 249 号線を東進しており、継続した調査が必要で生息実態をつかんでおく必要がある群れである。
- ※ 脇野沢・川内・大畑地区では、群れ捕獲ならびに個体数調整による捕獲が実施されており、群れの個体数が調査時の頭数から減少していることもありうる。

《 各群れごとのコメント 》

- 1) A2-84A 群 個体数が 2023 年度では 26 頭であったが、今回 24 頭とやや減少した結果となった。2023 年の観察では旧脇野沢小学校のグラウンドのシロツメグサ等を採食するために度々出没していたが、今年は全く出没しなかった。遊動域は、東は松ヶ崎、北は国道

338 号線七引地区、西は寄浪地区までと少しづつ拡大している。電波発信機を大人オスに装着しているため、この個体が群れ離れの可能性もあり楽観できない。

- 2) **A2-84B 群** 群れの個体数は 9 頭。2023 年の観察では大人オスがいなかったため、今回の観察では Baby は誕生していなかった。ただ、2024 年の夏ごろから大人オス 1 頭が群れに加入したため、来春には Baby が生まれることが予測される。電波発信機装着個体は 2 頭いるが 1 頭は電波を発信していない。また、電波発信機をつけていない大人メスは鼻先に傷があり、個体識別可能。遊動域は、主に瀬野地区、新井田地区、寄浪地区、蛸田地区、牛の首岬周辺の海岸線近くや県道沿いである。
- 3) **A2-85 群** 2023 年度の報告では個体数は 24 頭であったが、今回も同数の 24 頭を確認した。Baby は 4 頭、電波発信機装着個体は 4 頭いるが、1 頭が発信している。遊動域は宿野部地区まで東進していたが、捕獲による個体数の減少が原因なのか、東進のスピードが緩み宿野部地区まで行かなくなっている。初秋のクリ、晩秋のカキと季節によって食べ物に執着し一定の地区に居つく傾向がある。今後、A2-84A 群や男川関連の群れとの群れ間関係が注目される。
- 4) **A87-A 群** ここ数年、個体数が 90 頭前後の個体数が続いている。毎年 15 頭前後の Baby が誕生しているが、捕獲も進んでいるため、増減はあまり見られない。2023 年は瀬野地区の中山間畑に頻繁に出没していたり、国道 338 号線の東側まで遊動域を東進していたが、2024 年はブナの豊作が影響したのか、寄浪地区、蛸田地区、蛸田山周辺の限られたかなり狭い範囲を利用することが観察された。大人メス 3 頭に電波発信機が装着されているが、1 頭は電波を発していない。個体数の増減は見られなく捕獲も進むだろうが、分裂の可能性は高い。調査・研究が進んでいる群れで、今後の保護管理やサルとの共生においても貴重な群れといえる。
- 5) **A87-B 群** 44 頭、Baby 4 を確認した。九艘泊地区から中細間・穴間・青石と、南北に広く遊動している。A87-A 群や O1-B 群と遊動域が重なっている。九艘泊地区ならびに芋田地区の集落への出没はなくてはならないが頻繁ではない。九艘泊―滝山線の自動車道路で観察することが多い。新しく電波発信機を装着している。以前に装着した電波発信機は発信していない。
- 6) **O1-A1 群** 電波発信機が装着しているため、群れの動向が追える群れで、23 頭 + α を確認した。脇野沢川、国道 338 号線に沿って、南は斎場、北は国道 338 号ゲート北までの南北に広く遊動している。滝山地区、片貝地区や源藤城地区の電気柵の畑に出没することが多く、今後の動向を注視しなければならないし、畑から追い上げるなどの対策が急がれる群れである。

7) O1-A2 群 電波発信機を装着しているため、群れの動向が追える群れ、71 頭を確認した。個体数が 70 頭を越えているため分裂の可能性が高まっている。国道 338 号線の東側を遊動している。口広川流域あたりでの目撃もあり、山深くを東進している。滝山・七引地区の畑への出沒があるので、対応が必要な群れだ。

8) O1-B 群 大人メスに電波発信機が装着された群れ。今回 36 頭を確認できた。O1-A1 群よりも西側、西海岸線側に分布、九艘泊-滝山線の細間地域で目撃することが多い。また、国道 338 号線ゲート付近から源藤城地区の畑までにも出沒している。人との接触は現状では少なく、人と出会うと逃げる群れである。

9) O2-A 群 その 1 O2-A 群は 2023 年には 64 頭 + α を確認していた。70 頭近く又はそれ以上の可能性があったが、今年国道 338 号線でこのサイズの群れの確認は一度もなく 30 頭台の群れを数えるばかりだった。どう見ても O2-A 群が分裂している可能性があり、今回の報告でその 1 とその 2 とした。O2-A 群その 1 は 30 頭 + α で国道 338 号線の石碑よりも北で観察される。ただ、その 2 との識別は難しく、現状では観察場所で区別するしかない。電波発信機が未装着な群れであり、なかなか実態をつかむのが難しい。国道 338 号海峡ラインで車には慣れている。

O2-A 群 その 2 O2-A 群その 2 は 33 頭 + α で国道 338 号線 M 字カーブ周辺で観察される。ただ、その 1 との識別は難しく、現状では観察場所で区別するしかない。電波発信機が未装着な群れであり、なかなか実態をつかむのが難しい。国道 338 号海峡ラインで車には慣れている。

10) O2-B 群 53 頭 + α をカウントした。大人メスに電波発信機が装着されているが、発信していない。群れの動向がつかみにくいが、群れの識別はかろうじて可能な群れである。。田の頭地区、七引地区、滝山地区、源藤城地区と集落近くから国道 338 号線海峡ラインの中流部までを主なる遊動域としている。源藤城地区や滝山地区の畑への出沒も多くなり、今後追い上げなどの対策が急務となっている。

11) 男川 A 群 男川林道の蛸崎雨量観測小屋の奥で 9 頭 + α を確認した。林道に出てきていた個体の観察で、まだ森の中にいたと思われる。男川の中流域から宿野部川の上流域の西又沢林道、金八沢林道あたりまでを遊動域としている。A2-85 群と男川の下流域で遊動域が接するようになっている。むしろ、A2-85 群の存在が南下し小沢地区や蛸崎地区への出沒を阻止しているとも考えられる。電波発信機はついていない。

12) 男川 B 群 29 頭+ α を国道 338 号線の大荒川林道分岐周辺で確認した。国道 338 号線海峡ラインに出没した場合、02-A 群その 1 と 02-A 群その 2 と混同することもある。主な遊動域は、国道 338 号線周辺と男川の松山沢より西側上流部の男川流域である。人との接触は国道 338 号で車での接触があるだけで人を見ると逃げる群れである。男川 A 群と同様に畑への出没は皆無、山の中の群れである。電波発信機はついていない。

13) M2-B1 群 川内-佐井線カモシカラインの佐井村との境近くで 28 頭+ α をカウントした。川内-佐井線カモシカラインのゲート周辺からその奥で観察することが多い。湯野川集落への出没がなくはないが、頻繁ではない。電波発信機はついていない。

14) M2-B2 群 33 頭+ α を川内-佐井線の砥石林道出合より南、湯野川開拓までの間で確認した。川内-佐井線を南北に広く遊動、畑集落や湯野川集落への出没があり、対策が必要となっている。電波発信機はついていない。

15) M2-B3 群 その 1 M2-B3 群は、2022 年に 45 頭+ α を確認、それ以前の情報から 50 頭以上、60 頭ぐらいと推測されていた。電波発信機も装着されていて調査中に群れの確認は毎年できていたが、個体数が十分なカウントができて。今回、電波を発信していない大人メスがいる方の群れを M2-B3 群その 1 とした。20 頭+ α を確認したが、もう少しいる。川内-佐井線カモシカラインのゲート付近から大戸ヶ淵小公園周辺まで南北に広く遊動している。畑集落や湯野川集落への出没があり、対策が必要となっている。

M2-B3 群 その 2 電波発信機が装着され発信している大人メスがいる。30 頭をカウント。川内-佐井線カモシカラインのゲート付近から大戸ヶ淵小公園周辺まで南北に広く遊動している。畑集落や湯野川集落への出没があり、対策が必要となっている。

16) 湯の小川沢の群れ 2023 年度の報告で 2023 年 7 月ごろ 角違地区の大川目の畑に複数頭のサルが出没、畑荒らしをした(大川目住民情報) 2023 年 11 月 9 日 角違地区と旧温泉跡地周辺の国道 338 号線の道路両脇に複数頭のサルを目撃。11 月 8 日にも同様の観察。30 頭ぐらいはいた(電話線工事作業員からの聞き取り) 2023 年 11 月 12 日に蜷川地区で若いメス(4~5 歳)に電波発信機を装着。以上の 3 つの情報は、おそらく湯の小川沢の群れと推定される、としていたが、蜷川地区で捕獲、発信機を装着した群れは安部城北 B 群の可能性もある。角違地区の群れについては、湯の小川沢の群れの可能性がある。いずれにしても、湯の小川沢の群れは目撃情報もなく、実態がつかめていない群れである。。

- 17) 安部城北 A 群 35 頭 + α を川内一佐井線大滝公園南で確認した。ただ、もう少し個体数は多いと推測。電波発信機が装着されている。北は湯野川地区、南は小倉平地区、銀杏木地区までと南北に長く遊動する。集落への出没があり、対策が必要な群れである。また、川内町のブドウ園に最も近く、群れの動向を注視しなければならない。
- 18) 安部城北 B 群 2023 年度の報告で 39 頭 + α を確認できていたが、今回の調査では群れの確認はできなかった。安部城北 A 群と遊動域が重なり、小倉平地区、銀杏木地区まで遊動域を広げている。安部城北 B 群は褓川地区で捕獲し電波発信機を装着した若いメスがいると思われるが、その電波を確認することはできなかった。遊動域を川内一佐井線よりも東へ広げている可能性がある。畑や民家への出没があり、対策が必要な群れである。川内町のブドウ園に最も近く、群れの動向を注視しなければならない。
- 19) I2-A1 群(キノップ A 群) 今回の調査で 27 頭 + α をカウントした。ただ、I2-C 群の可能性もある。同日ほとんど同時刻に木野部峠で二つの群れを観察しており、どちらも I2-A1 群(キノップ A 群)なのかは判定できない。捕獲対象の群れであることから個体数が減少する可能性がある。木野部峠で観察する機会が多くなっている。
- 20) I2-A2 群(キノップ B 群) 11 頭 + α を確認できた。個体数が 10 頭前後であることが群れの識別のポイントとなっている。個体数が少ないことや捕獲対象の群れであることから急激な個体数の増加はない。むしろ、捕獲による個体数の減少で群れそのものが消失する可能性もある。
- 21) I2-C 群 2014 年に 39 頭をカウントし、2023 年度の報告で 38 頭(足跡)確認していたが、今回、31 頭 + α を観察できた。I2-A1 群(キノップ A 群)の所でも記載したが、群れの識別が難しい。ただ、ワカモノのオスに鼻に傷のあるサルがいる。木野部峠にも出没するが、主となる遊動域は佐藤平林道周辺である。
- 22) Ka 群 これまでの冬季調査や補足調査で、奥薬研の老人福祉センター周辺で確認がとれていた群れだったが、今回は小西股林道での観察となった。16 頭 + α (足跡)のカウントだが、もう少しいると思われる。2021 年に 37 頭のフルカウントに近い観察を得ている。3 年経過していることから 40 頭以上はいるものと推測される。
- 23) Ko-A1 群(イロハ A 群) 佐井一大畑線の釜の沢林道入口から薬研温泉郷、ウグイ滝林道入口あたりの大畑川両岸で観察する機会が多い群れ。今回は薬研野営場北の佐藤平へ続く林道で 30 頭 + α (足跡)を確認した。

- 24) **Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)** 今回の調査では確認ができなかった。去年、関根地区の見付川を横切る 73 頭をフルカウントしていたが、個体数も多く、国道 279 号線を東進している群れでもあり、継続した生息実態調査が必要な群れである。すでに東通村大利地区へ出沒している可能性があり、猿害対策が急務な群れである。
- 25) **Ko-A2-b 群(イロハ B2 群)** 電波発信機がついていることもあり調査が継続されている群れである。大畑町川代地区から木野部峠までの民家周辺を移動している。25 頭 + α を確認できた。民家周辺を生息域としているため、対策が急務な群れである。調査としては捕獲対象群であることから個体数が減少することが推測される。
- 26) **Ko-B1 群(ハイロ A 群)** 佐井一大畑線の紅葉橋より下流、小目名地区までの左岸でよく観察される。今回、31 頭 + α をカウントした。同日、ほぼ同時刻に羽色神社東の道路沿いの斜面でもう一群、観察している。こちらを Ko-B2 群(ハイロ B 群)とした。電波発信機はついていない。小目名集落にも出沒することから対策が必要な群れである。
- 27) **Ko-B2 群(ハイロ B 群)** Ko-B2 群は、Ko-B1 群と遊動域が重なっており、群れの同定が難しい。今回、同日に 2 つの群れを確認できたことから、Ko-B2 群の確認ができた。Baby の観察がなかったことから、もう少しいる可能性がある。Ko-B1 群(ハイロ A 群)よりも個体数が少ない群れと認識している。
- 28) **I3-A 群** 佐井一大畑線の奥薬研ゲート奥、西側の烏沢林道入口付近から近藤沢林道入口、下獅子沢林道あたりまでの大畑川兩岸を遊動域としている。2023 年度の観察で 42 頭、2022 年度の観察で 61 頭、2021 年度では 79 頭の足跡を確認している。分派、分裂している可能性を疑っていたが、少頭数の群れ離れの可能性はあるものの、群れの分裂はしていないと思われる。が高い。ただ、毎回群れの確認はできているが、まだまだはつきりしない点も多く、今後の調査の課題でもある。
- 29) **M2-A1 群(弥一郎沢の群れ)** M2-A 群関連の 4 つの群れは、個体識別できる個体や電波発信機が装着されている個体がいなことで、群れの同定は個体数と目撃地点、足跡の観察地点等を総合して判定している。M2-A1 群は、大畑川左岸の近藤沢、仁助沢、弥一郎沢、右衛門四郎沢を主な遊動域としている。今回、右衛門四郎沢と大畑一佐井線の本線で 28 頭 + α (足跡)を確認した。+ α はまだまだいるものと思われる。50 頭を超える個体数と推測している。
- 30) **M2-A2 群(上狄沢の群れ)** M2-A2 群(上狄沢の群れ)は、大畑川の兩岸、右衛門四郎

沢、太兵衛川、仁部川、長次郎川、上狄沢周辺を遊動域としている。今回 17 頭 + α (足跡)を確認したが、2022 年では 61 頭を確認していることから、分裂、分派している可能性もある。

31) **M2-A3 群(囲井沢の群れ)** M2-A3 群(囲井沢の群れ)は、分裂の可能性があることをここ数年報告していたが、今回も分裂の確証はつかめなかった。群れの確認も複数頭が通った 4 本の足跡の筋だけでの確認となった。囲井沢で伐採作業をしていたため、十分な踏査が出来なかった。

32) **M2-A4 群(三太郎沢の群れ)** M2-A4 群(三太郎沢の群れ)は、近年、三太郎沢の出合で I3-A 群を観察する機会が多く、なかなか三太郎沢の沢深くまで踏査が出来ていなかったこともあり、M2-A4 群(三太郎沢の群れ)の観察ができていない。今回も同様に群の確認はできなかった。

33) **S1-A 群(新田 A 群)** 今回の冬季調査、ならびに補足調査では、調査そのものを実施しなかった。2022 年、野猿監視員からの聞き取りで約 30 頭の群れとの情報を得ている。むつ市の名古牧野、宮後牧野、長坂あたりを遊動している。民家周辺に出没することが多く、また、遊動域を西へ移動させている。電波発信機が装着されている。

34) **S1-B 群(新田 B 群)** 今回の冬季調査、ならびに補足調査では、調査そのものを実施しなかった。2022 年、野猿監視員からの聞き取りで約 42 頭の群れとの情報を得ている。分裂している可能性もある。むつ市の恐山街道の長坂、落野沢、新町水源地周辺を遊動している。猿害対策が必要となっている。電波発信機が装着されている。

35) **S2 群(恐山の群れ)** 今回の調査で釜の沢林道を 3 日間、踏査をしたが群れの発見はなかった。足跡もなく、調査中釜の沢林道周辺を遊動している痕跡はなかった。釜の沢林道に西、ひとつ尾根を越えたウグイ滝沢林道中流部出目撃した 10 頭 + α を S2 群(恐山の群れ)とした。

不明群 2025 年 1 月 11 日 14:00~14:20 国道 338 号線 むつ市堺田地区のファミリーマートの向かいで 15 頭 + α を確認。大人オス 4 頭を目撃したが、個体数はもう少しいると推測される。電波発信機で電波を確認したが電波はとれず、電波発信機未装着の群れ。西から進出している群れとした湯の小川沢の群れ、東から進出している群れとしたら S1-A 群または S1-B 群の可能性が高い。

むつ市管内 脇野沢・川内地区のニホンザル

2024 年度調査結果

[2023 年度調査結果]

《 脇野沢地区 》

群れ数	12 群	[12 群]
個体数	478 頭 + α (内 54B)	[457 頭 + α (内 70B)]

※ むつ市脇野沢七引地区の野猿公苑のサル(A1 群)は含まない。

《 川内地区 》

群れ数	6 群	[6 群]
個体数	146 頭 + α (内 15B)	[146 頭 + α (内 19B)]

《 大畑・薬研地区 》

群れ数	17 群	[17 群]
個体数	341 頭 + α (内 19B)	[493 頭 + α (内 36B)]

《 むつ市全域 》

群れ数	35 群	[35 群]
個体数	965 頭 + α (内 88B)	[1096 頭 + α (内 125B)]

脇野沢地区は、各群れとも精度の高い結果が得られた。群れ数に関しては、同数の 12 群だが、O2-A 群が分裂している可能性がある。また、A87-A 群、O1-A2 群の個体数が 70 頭を越えていることから分裂の可能性が高まっている。個体数に関しては、21 頭増加した結果となった。捕獲対象の群れが多く、個体数の増減は捕獲との兼ね合いが強いため、その動向を追い続ける必要がある。Baby の出産数は、54 頭で前年度よりも 16 頭減少した。国道 338 号線に生息する O 群関連の群れと男川流域の 2 つの群れがフルカウントできていないことによる。また、捕獲対象群は、年齢や性といった群れの構成が不自然な状況になる恐れがある。

遊動域については、O1-A2 群が口広川流域まで東進している。A2-85 群や男川 A 群とのかかわりが注目される。A2-85 群はこれまで宿野部地区西側まで遊動していたが、近年捕獲がすすみ、個体数が減少したことが原因なのか、宿野部地区までの遊動は観察していない。A87-A 群が国道 338 号線を東側まで遊動域を広げていたが、2024 年の観察では国道 338 号線を東へ越えることはなかった。

川内地区では、群れ数は6群と同数だが、M2-B3群が分裂している可能性が高い。個体数とBabyの出産数は前年度とほぼ同数という結果となった。ただ、フルカウントできた群れが少なく、個体数はもう少し上がるだろう。湯の小川沢の群れは、2023年度の報告書で角違地区の大川目の畑、角違地区東の旧温泉跡地で目撃された群れの可能性が高く、むつ市堺田地区で目撃した15頭+αの群れの可能性もある。ただ、確定できないのが現状だ。国道338号線の海岸線の民家周辺に近年目撃情報が増えてきている点が気になり、民家や畑に定着する前に早急な対策が必要となる。

遊動域については、安部城北A群、安部城北B群ともに上下小倉平地区や銀杏木地区まで南下している。また、下北ワインのワイナリーに最も近い群れであり、その動向に注視し、早急な対策が必要である。

川内川流域には今回の結果に湯の小川沢の群れと安部城北B群の個体数を加味して6群、約200頭のサルが生息しているものと推測できる。

大畑・薬研地区は、群れ数は2023年度と同数であったが、個体数が約150頭ほど減少した結果となった。これは、2023年に73頭カウントしたKo-A2-a群(イロハB1群)、S1-A群、S1-B群の合計約150頭を確認できていないことによる。Babyの数も2023年度と比べ半減している結果となっているが、確認できていない群れや奥薬研のゲートより西、大畑川上流域の群れが足跡による確認が多く、Babyの目撃がなかったことによる。個体数が70頭を超えるKo-A2-a群(イロハB1群)、I3-A群が近々分裂することが予測される。特に、Ko-A2-a群(イロハB1群)は、国道279号線を東進し、東通村大利地区まで遊動域を広げていることから、分裂の結果、国道279号線より東側に分裂群が定着することが懸念される。奥薬研のゲートよりも奥については、不明なことが多いが、継続した調査を続けてその都度観察した結果を記録していきたい。S1-A群、S1-B群についても、旧むつ市街地の恐山街道沿いや水源地あたりの民家の背後の林縁部を西へ移動している。今までサルの出没がなかった地域への出没が予測される。早めの対策が望まれる。

むつ市全域では、群れ数は2023年度と同数であったが個体数ならびにBabyの数は減少した結果となった。これは上記しているが、大畑・薬研地区のKo-A2-a群(イロハB1群)、S1-A群、S1-B群の合計約150頭を確認できていないことによる。よって現状ではハナレザルの数も考慮してむつ市全域で最低1200頭のニホンザルが生息していると推測できる。遊動域は、むつ市の市街地を除く全域にサルの分布が広がっていることが推測される。もちろん、山深くまで調査が行き届かない地域もあり、確定とはいかないが、群れの生息状況、利用頻度に濃淡はあるものの全域に広がっていると推定しうる状況になっている。

除雪車が通った直後の 舗装道路脇に印されたサルとクマの鮮明な足痕

NPO 法人ニホンザル・フィールドステーション 伊沢絃生

1. 雪の状況

令和6年度「むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査」(代表者・松岡史朗)のうち、大畑・薬研地区の調査が例年通りの日程(12月21日から25日)で実施された。

ここ何年も、調査開始時の積雪量は少なく、調査期間中も雪は夜間に舞う程度、気温も比較的高く、積もった雪を凍らせるより融かす方向に働いていた。したがって筆者のジープタイプの小型車だと、大畑川の支流に沿ったどの細い林道も、サルを探してかなり奥まで行くことができた。

それが今冬は、開始前日の20日夜にばた雪がしっかり降り、針葉樹ヒバやスギの葉や落葉樹の枝に着雪。以後23日までは強い寒波の影響で、林の中は日中でも0℃を割る寒い日が続いたため、時折強風が吹き抜けても着雪はほとんど落ちなかった。また、これも寒波の影響だが、21日午後から24日朝まではさらさらの粉雪が繰り返し降って、どの林道も刻々積雪量が増して40cmを越えた。それで車は全く使えず、筆者が歩いた林道ではどこもカンジキ無しで優に膝上までごぼった。もちろん動物の足跡^{脚注1}も少なく、あってもふわふわの雪面に窪みが残るだけのものがほとんどだった。

そのような状況の中、筆者にとっては初めての観察だが、意外な場所に驚くほど鮮明な足痕^{脚注1}が印されていた。

2. 除雪車

今冬は大畑川右岸の最上流、重兵衛沢と囲沢左股の二ヶ所に伐採業者が入っていて、大量の材木を搬出するため集積場所から県道の大畑・佐井線(県道284号線で通称あすなろライン)の奥薬研まで、2台の除雪車が休みなく作業していた。だからこの道路だけは車が使えた。

県道284号線(以下、本線と呼ぶ)は片道一車線の舗装道路であり、23日朝には除雪車が通った直後の法面側ぎりぎりの道路上にサルの足痕を見、25日朝には同様の所にツキノワグマ(以下、クマと略す)の足痕を見たのである。

本線上のその場所は見れば一目瞭然なのだが、少し説明すると、除雪車のブレード

脚注1 ^{あしあと}足跡は英語でTrackといい、長く続いた一連の足痕をいう。一方^{あしあと}足痕は英語でPrintといい、一つの足によってつけられた跡をいう(今泉忠明『新アニマルトラックハンドブック』,1994による)。

(雪を掻き取るスコップにあたる部位)の横幅の端から 25cm ほど内側にクローラ(タイヤに相当する部位)があり、積雪を掻き取った際にブレードから舞い上がった粉雪が法面と轍(クローラの跡)のあいだに様に撒かれた状態になる。そして粉雪はごくわずかだが(厚さは 1cm 未満)、動物がそこで踏ん張ると下が舗装道路だから足痕がくっきり印されることになる。

その場所以外の道路上はきれいに除雪されて雪がごく少ない上に、除雪車の太いクローラ跡等いろんな跡があり、動物はその上を普通に歩くだけだから、よほどその気になって目を凝らさないとかれらの足跡に気付けない。

3. サルの足痕

サルの鮮明な足痕があったのは本線の、大畑川左岸烏沢林道の入口から右岸三太郎沢林道への入口までの間で、上流方向に三分の二ほど行った地点。そこは薄暗さを覚えるほど両側が鬱蒼と茂ったスギ林で、すぐあと林の中に入って調べたら、サルは路肩側、大畑川の方から急斜面を登って本線を横切り、法面側の奥へ向かっていた。そして、鮮やかな足痕は除雪車のブレードで削られた法面のちょっとした雪壁(高さ 40cm ほど)に後足で踏ん張って跳びついたオトナのメスと 2 歳のコドモのものだった。

かれらの足痕(両者とも左後足)と林の中の溝状の窪み(木の根元でオトナの足痕の上にアカンボウの足痕を見たのでメスと分かった)を観察したあと車に戻り、除雪された本線を上流に向かう。三太郎沢林道の入口がある少し先で作業中の除雪車に追いつく。そうするとサルが本線を横断したのは除雪車の通過後だから、除雪車のスピードから計算して、筆者が見つけたときより前 30 分以内のことだったと推測される。

4. クマの足痕

車窓から道路脇の雪面に動物の足跡らしきものを見つけたら、とりあえず車を停めてそこへ直行するのが常だ。しかし、先のサルの足痕観察中に気付いたのだが、ごく薄く積もった雪面上の足痕だと気付かないまま踏んでしまい、せっかくの足痕を自分の長靴で消してしまうことになる。

調査最終日の 25 日、強い寒波が去って早朝から快晴。日差しは暖かく、吹く風にも温もりが感じられる。いつも通り本線に車を走らす。烏沢林道への入口から上流方向に 200m ほど行った所で、法面側に点々と続く大きな足跡を発見。おそらくカモシカだろうと思いながら車を止め、サルの足痕観察時の教訓から、その足跡に向かって真っすぐでなく斜めに接近する。すると、なんと 23 日のサルの足痕と同様の所に、指の一本一本どころか爪の一つ一つまで見事なほどはっきりしたクマの足痕が印されているではないか。

そのクマはサルとは逆、法面から本線に降り(その瞬間前足に体重がかかる)、本

線を横切って大畑川へと向かっていた。もしこの足痕(右前足)を見落としていたら、両側のスギ林の中は乾いた粉雪が 50cm を超えて積もっていたから、深めの穴のような跡を残したのがクマかカモシカか、見分けるこつは分かっているけど、確証を得るのに少々時間を要したに違いない。

それにしても立派な足痕だ。前々日までの酷寒の日々を考えたら、よくもまだ冬眠に入らずにいたものだ。このクマは方向や距離からして、前々日釜ノ沢林道で調査員が足跡を見たと同一個体ではないか。

数年前北海道で、牧場の幼牛を次々に襲っては食べて話題になった巨大なオスのヒグマ、OSO18(オソは地名の北海道川上郡標茶町・弟子屈町に跨るオソツベツという地名から、18は前足の横軸を足痕から測って 18cm あったから)は、捕獲したあと改めて計ったら 16cm しかなかったという。実際、雪上の動物の足痕の幅は積雪量や雪の質、雪面の状態等で変化するし、幅といっても輪郭はぼやけがちだ。だが、今回はそんな心配はない。前足の横幅を計ったらちょうど 11cm だった。

5. 山の食べ物

この地域のこれまでの冬期調査で、2年に一度ほどの割合で十数名の調査員の誰かがクマの足跡に出会っているが、2回以上見た年は一度もない。それが今冬は、筆者の目撃を含め3回も別々の調査員が別々の日に別々の場所で見ている。しかも調査員が車を走らせたり歩いたりして調査した全面積は昨年までと比べはるかに狭いのにな。

松岡史朗氏は半島西南部、脇野沢地区での今秋の調査で、山ではブナとミズナラが大豊作、したがって、サルなどの群れも両方の樹木が多い山の奥の尾根筋や稜線一帯にずっと居続けていて、いつもなら頻りに姿を見せる沢沿いの低い所にはほとんど下りて来なかったという。同様にここ、半島の中央部一帯も両樹種の堅果が大豊作だとすると、例年なら支流の下流域や大畑川との合流点周辺を頻りに利用するいくつかの群れのうち、今冬はひと群れしか姿を見せなかった点が頷ける。それにクマも、食べ物が山に沢山あれば食べるに一所懸命でなかなか冬眠に入らないといわれているが、まだ動き回っていたのも合点がいく。

6. 想像の世界

たった一つだがクマの鮮明な足痕を法面脇に発見し、スギ林に点々と続く穴状の窪みを調べて車に戻るまで、要した時間は 10 分ほどだろう。再びサルの群れを求めて本線沿いに車を走らす。すぐに除雪車に追いつく。まだ三太郎沢林道の入口地点より手前で作業中だ。

サルのとくと同様スピードを計って逆算する。そうするとこの除雪車がクマの足痕のあった所を通過したのは、筆者がそこに着く 5 分から 10 分前と推定される。そのあと漆黒の巨体が法面側のスギ林からのそりと顔を出し本線を横切ったのだ。本当に

惜しいことをした。あと少し早くそこに着いていれば、ブナやドングリの実をたらふく食べて太った恰幅のいいその姿を直接目にすることができたのに。筆者は OSO18 に習い、このクマに会いたいという願いを込めて、大畑川の畑を取り“Hata11”ととりあえず命名した。

そのあと本線にゆっくりと車を走らせながら、車窓に展開する雪景色の中に Hata11 を歩かせたり木に登らせたりブナの実やドングリを探させたりしては、ひとり想像の世界を楽しんだ。

ところで筆者はここ下北や石川県白山、奥羽山脈の宮城県側等で、早春のブナの灰白色の花食い、初夏のヤマグワやコウゾの赤や紫の漿果食い、真夏のモミジイチゴやウラジロイチゴの黄や赤の漿果食い、秋の褐色のドングリ食いなどに夢中なクマに度々遭遇してきた。そして、太陽のまぶしい光を全身に浴びた艶やかで温かい漆黒を感動を覚えながら見入ってきた。それがだ。これまではいずれも春から秋の色どり豊かな背景の中だったが、目の前の、想像の世界の背景はきらめく純白の世界だ。その黒はおそらく、黒曜石の光沢のある黒をはるかに凌駕した、今までに見た漆黒よりさらに深くて強烈な黒なのだろう。

7. サルの移動

話は変わるが、今回のような粒のごく小さいさらさらの粉雪が十分積もってふわふわな状態の中で、サルの群れはどのように移動するのだろうか。

群れが林道を横切ると、そこには足跡でなく溝状の窪みが残る。調査員はそれを“スジ”（筋のこと）と呼び、そこにスジが何本あったかを「日々の調査記録」に書き留る。その際、気を付けたいのは、スジの多少はスジを付けた群れの個体数の多少とはまず関係ないという点だ。簡単に言ってしまうと、同じ群れでも路肩側の急斜面を登って来て林道に出た場合はスジの本数が少なく、法面の斜面を下って来て林道に出たときは本数が多い。林道の両側が平坦地なら積雪量が多いほど本数は少ない等々。歩き難さが増せば増すほど、後ろのサルは前のサルが頑張ってラッセルした踏み跡を使うからだ。とは言っても自然のことだから例外もあり、それがまた面白い。

ばた雪ではなく粉雪が降り積もった時はとくにそうだが、調査していてスジに出会ったら、たとえ疲れはきついても本数を数えて終わりではなく、林道を逸れスジに沿って少し歩いてみるかスジを逆にたどるかをやって欲しい。スジはそこまで雪にごぼりながら歩いて来て気付かなかった沢山のことを語ってくれるに違いない。

それはそうと、強い寒波が去り、天候が前々日までとは打って変わった調査最終日の 25 日、一望できるとの雪面にも、酷寒にじっと耐えていたのだろうがカモシカやウサギ、キツネやテン、リスやヤマドリ等の足跡が所狭しと、踊るがごとく騒やかに印されていたのが印象的だった。

謝 辞

わたしたち NPO 法人ニホンザル・フィールドステーションの活動に賛同、多大な支援をしていただきました福田裕男・あき子(故)さんご夫妻。

援助していただいたお金を「福田基金」とし、下北半島のニホンザルの調査活動費に使用させていただきました。ありがとうございました。無事、調査を終えることができました。感謝の意を申し上げます。

下北半島のニホンザルの現在ならびに将来は決して楽観できる状況ではありません。私たち NPO は、下北のニホンザルの今を観つめ、彼らの尊厳を見守る活動を続けていきたいと考えています。

下北半島のサル

2024年度(令和6年度)調査報告書

発行者 NPO法人

ニホンザル・フィールドステーション

発行日 2025年5月10日

編集・印刷 松岡史朗

☎039-5326

青森県むつ市脇野沢桂沢90-1

TEL・FAX 0175(44)2620